

第20回 神奈川県美術展

全国公募

会期：日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形＝10月3日(水)～10月14日(日)／工芸・書・写真＝10月17日(水)～10月28日(日)／野外彫刻＝10月12日(金)～11月4日(日)
会場：神奈川県民ホールギャラリー／県立相模原公園 主催：神奈川県美術展委員会／神奈川県



ごあいさつ

神奈川県美術展は、本年、第20回展を迎えることになりました。

昭和40年に創設された本展は、県内最大の公募展として、若手作家の育成や県民文化の向上をめざして毎年開催されてまいりました。

その間、本展には、時代を先取りする意欲的な作品が数多く寄せられ全国的にも注目を浴びてまいりました。

本年の第20回展は、記念展として位置づけをし、広く全国から作品を公募すると同時に、近年とみに盛んになっている野外彫刻展を開催することといたしました。

正直なところ、私どものこの展覧会に、全国からどのくらいの作品が寄せられるのかいささか不安もありました。

しかし、蓋をあけてみると、沖縄県の離島からも応募があるなど全国のみなさんから温かい御支援をいただきました。県民を代表して厚くお礼申し上げます。

審査の結果、3本の大賞のうち2本が県外の作家が受賞されることになり、その意味では、県内作家にとってこの上ない刺激になったことと思います。

また、これを契機に、本展に参加いただいたみなさんが、地域を越えて相互の交流をはかり、新しい芸術の創造に御活躍いただけるものと期待しております。

最後になりましたが、今回の展覧会開催にあたっては、審査員のみなさまをはじめ各方面から物心両面の御協力をいただきました。

心よりお礼申し上げます。

昭和59年10月

神奈川県美術展委員会
委員長 上野豊

第20回神奈川県美術展

●
1期展／日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形
昭和59年10月3日(水)→10月14日(日)

●
2期展／工芸・書・写真
昭和59年10月17日(水)→10月28日(日)

●
野外彫刻展
昭和59年10月12日(金)→11月4日(日)

●
会場／神奈川県立県民ホールギャラリー・県立相模原公園

●
主催／神奈川県美術展委員会・神奈川県



■大賞 東谷 武美 日触 F (版画) 56cm × 76cm



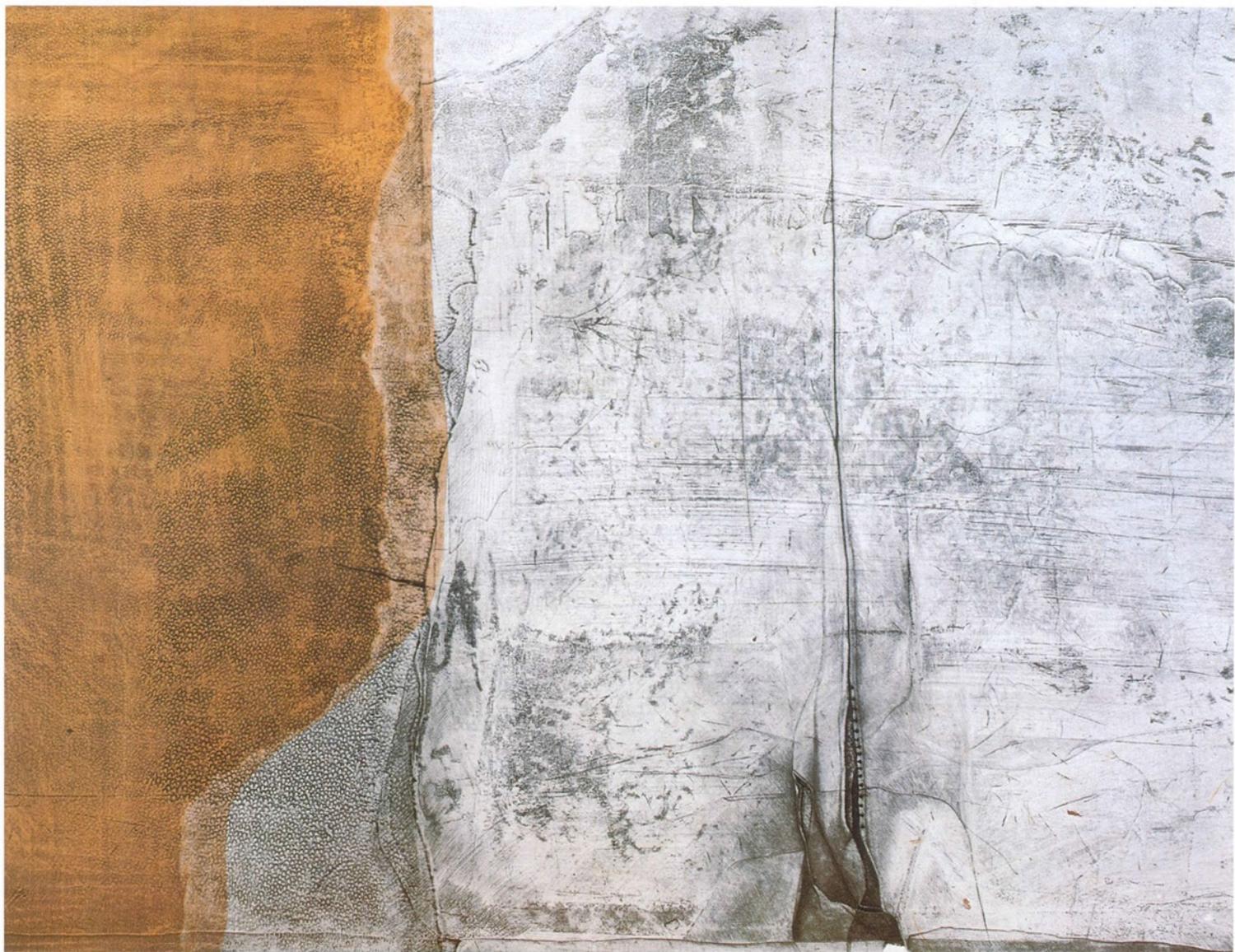
■大賞 西 雅秋 CASTING VIEWPOINT 400×300×1200cm 木, 鉄, 石(野外彫刻)



■準大賞 森 一浩 風の風景 (洋画) 227cm×182cm



■準大賞 梅田勝裕 砂の女（彫刻）190cm×70cm×60cm



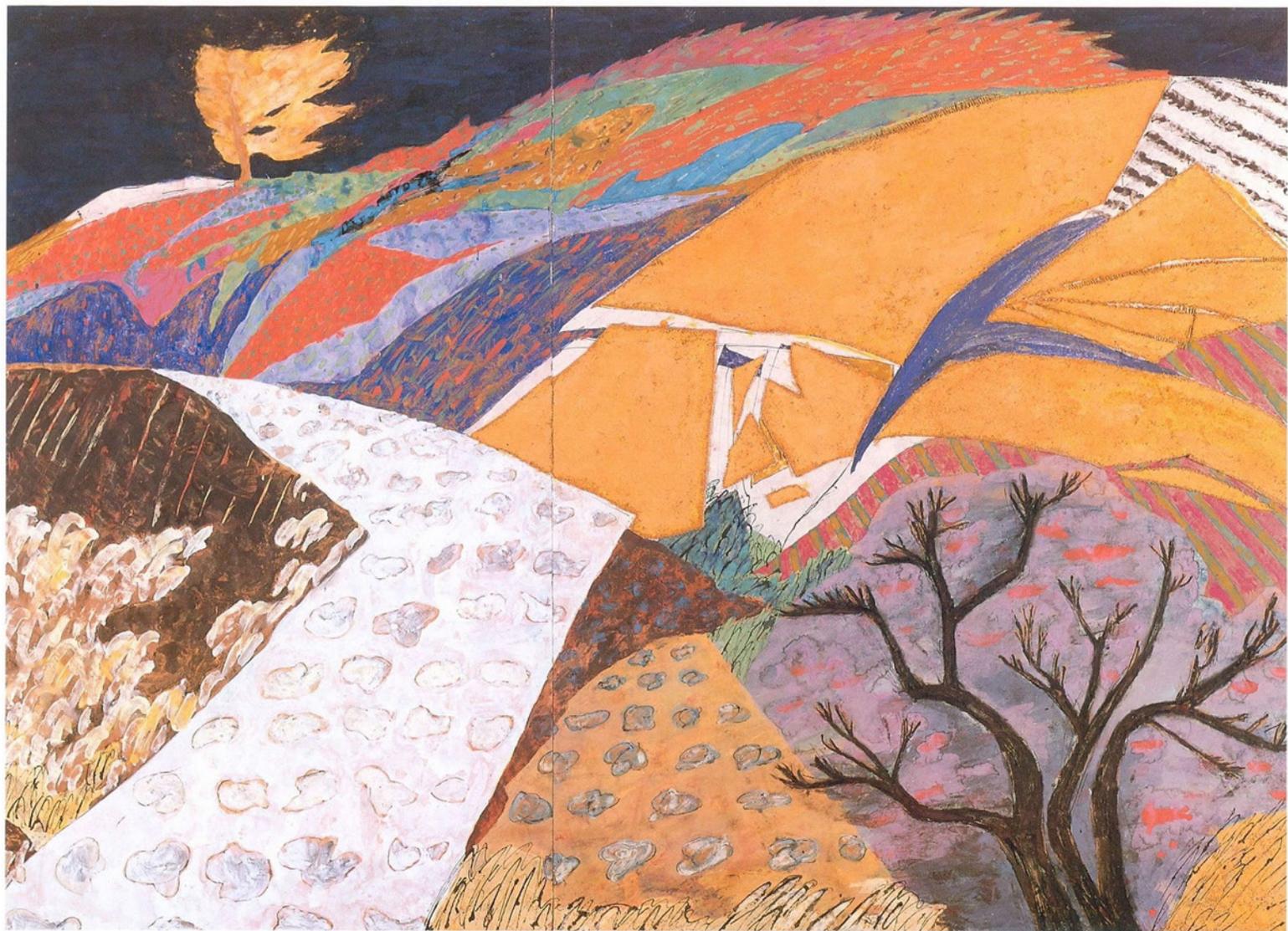
■特選 林 孝彦 閉II (版画) 40cm×60cm



■特選 和田 政幸 擬木 (立体造形) 205cm×180cm×150cm



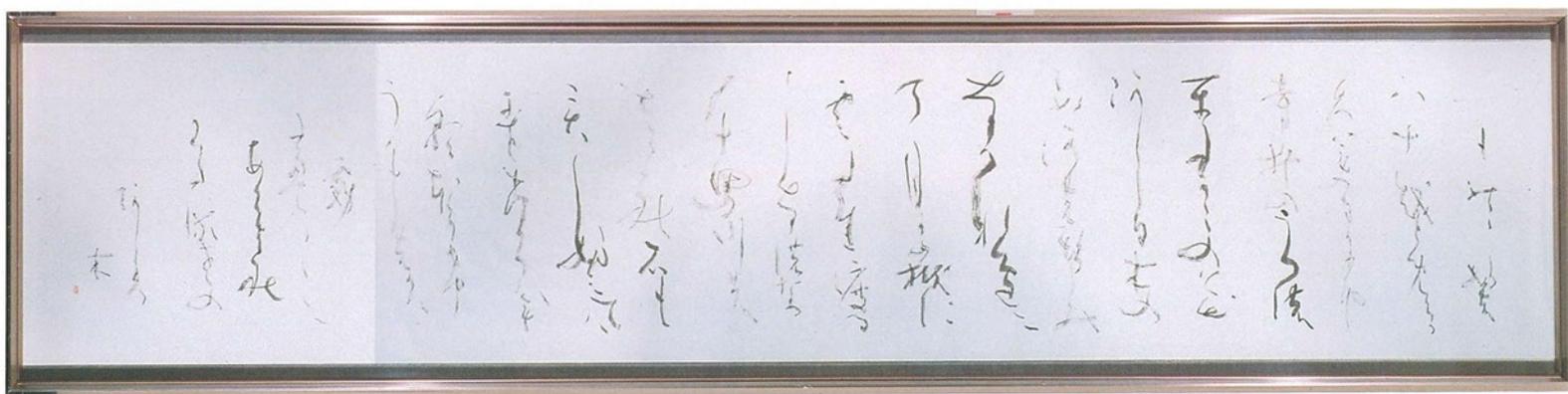
■特 選 島田 憲一 烈 (立体造形) 70cm×420cm×250cm



■神奈川県立近代美術館賞 小林 千里 風景（日本画）162cm×227cm



■大賞林 亘 クリスタル大鉢“洞” (工芸) 16cm×40cm×40cm



■準大賞 高木 幸子 もののふの(書) 60cm×240cm



■ 準大賞 奈良 巖 A TURNING POINT (写真) 60cm × 338cm



■ 準大賞 佐藤 樹美 悠遠の記 (工芸) 162cm×150cm



■特選 豊崎花塲 和歌あつめ(書) 60cm×240cm



■美術奨学会賞 千住 博 西の街 (日本画) 194cm×224cm



■美術奨学会賞 小泉 正彦 冬の怪 No. 2 (洋画) 227cm × 182cm



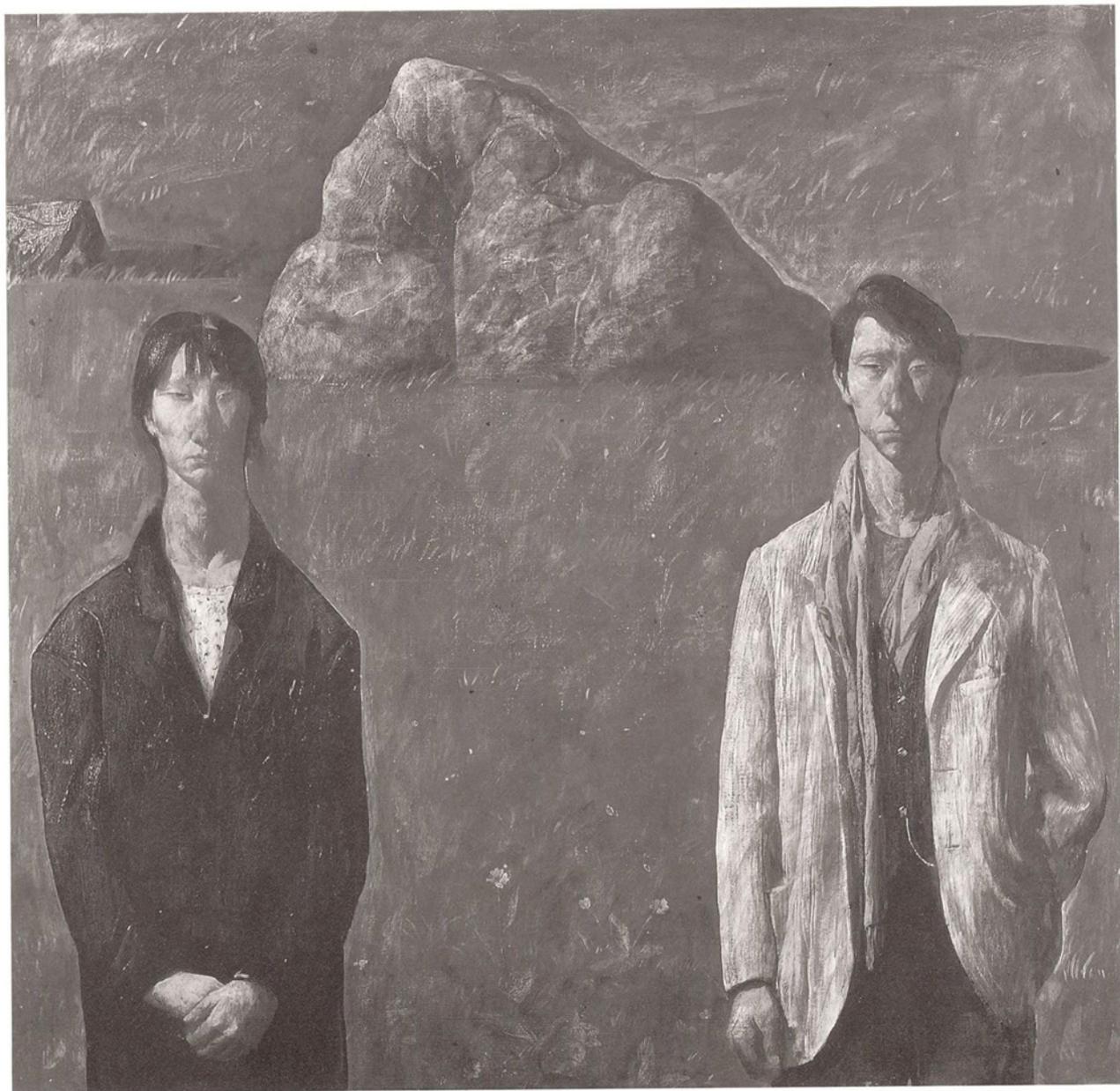
■美術奨学会賞 星 兼雄 変容-(Ⅸ) (洋画) 162cm×227cm



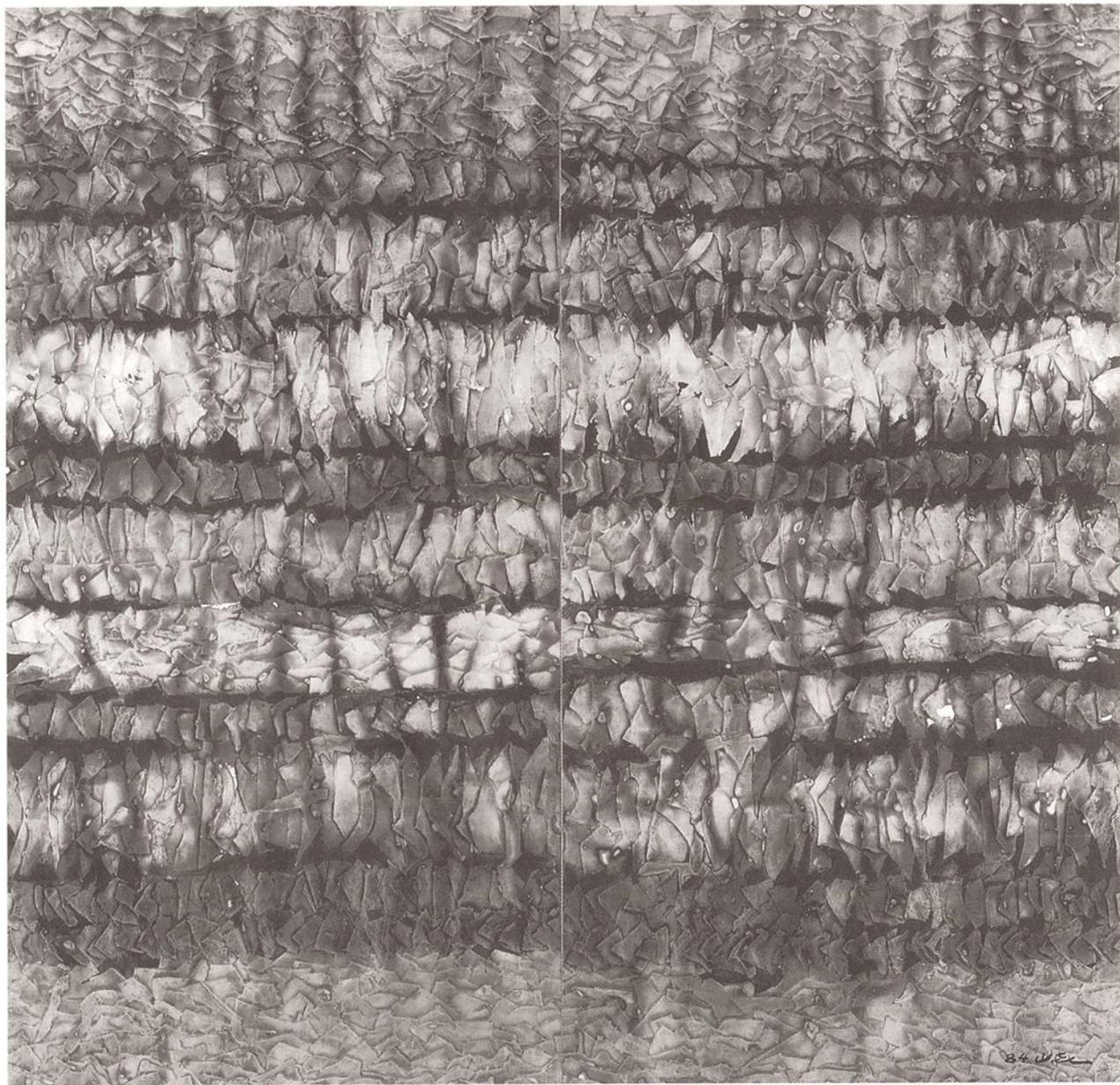
■美術奨学会賞 李 赫 待つ人達 (彫刻) 160cm×150cm×100cm



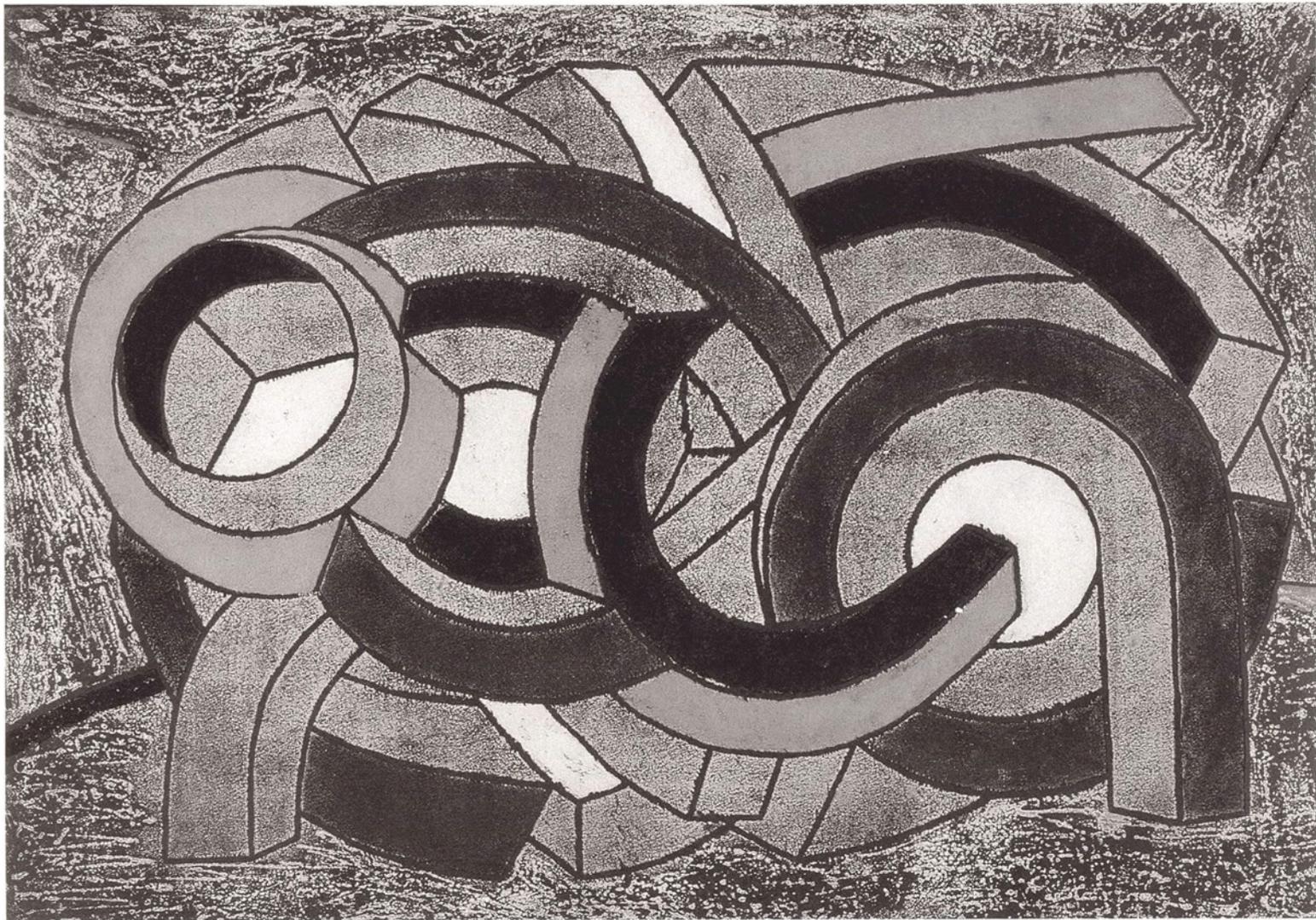
■美術奨学会賞 窪田 俊三 対の吊布 (立体造形) 400cm×200cm×180cm



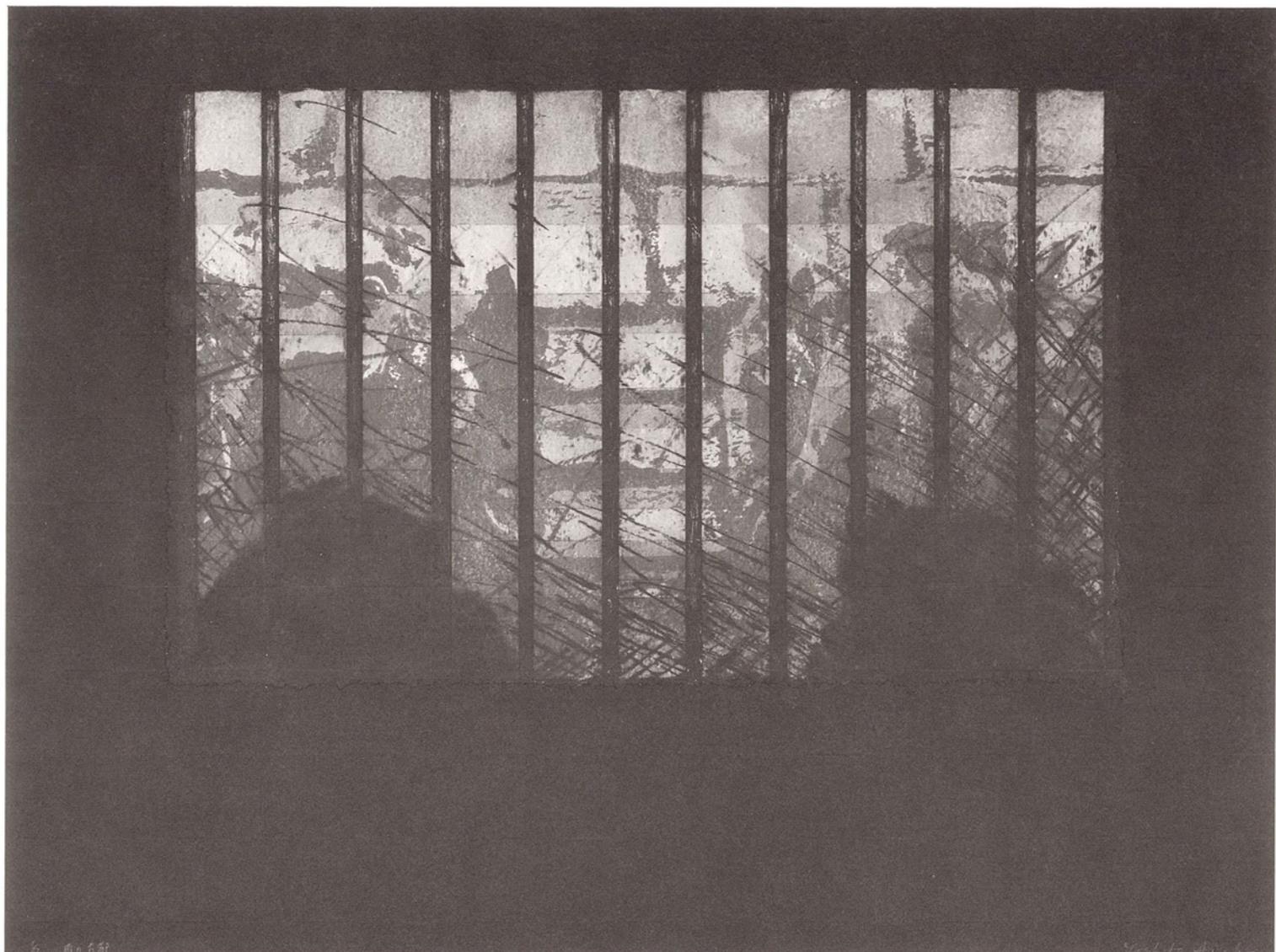
■特別奨励賞 吉岡 正人 石の庭にて(B) (洋画) 162cm×162cm



■特別奨励賞 山口 喜弘 氷塊の舞 No. 2 (洋画) 200cm × 200cm



■特別奨励賞 塩田 和男 Line 4 (版画) 51cm×72cm



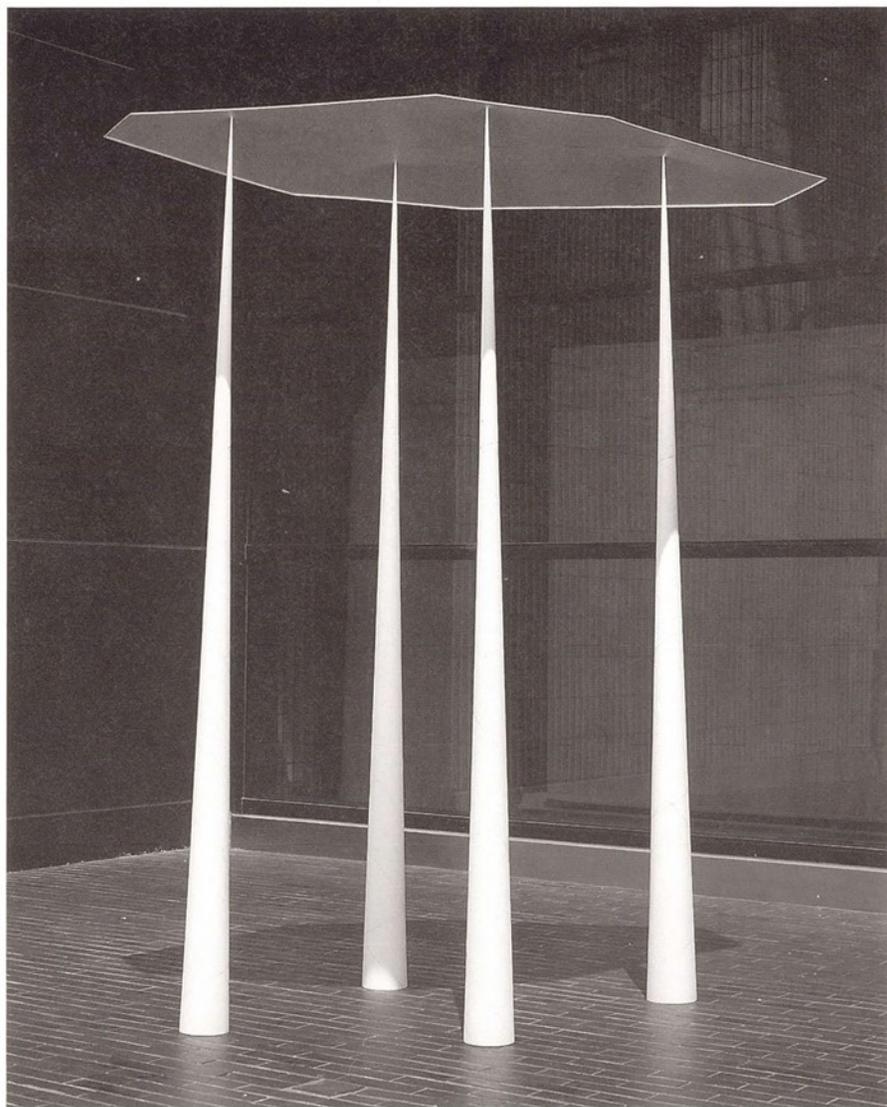
■特別奨励賞 有地 好登 雨の古都（版画）56cm×76cm



■特別奨励賞 河口 聖 SPACE No.101 (版画) 64cm×93cm



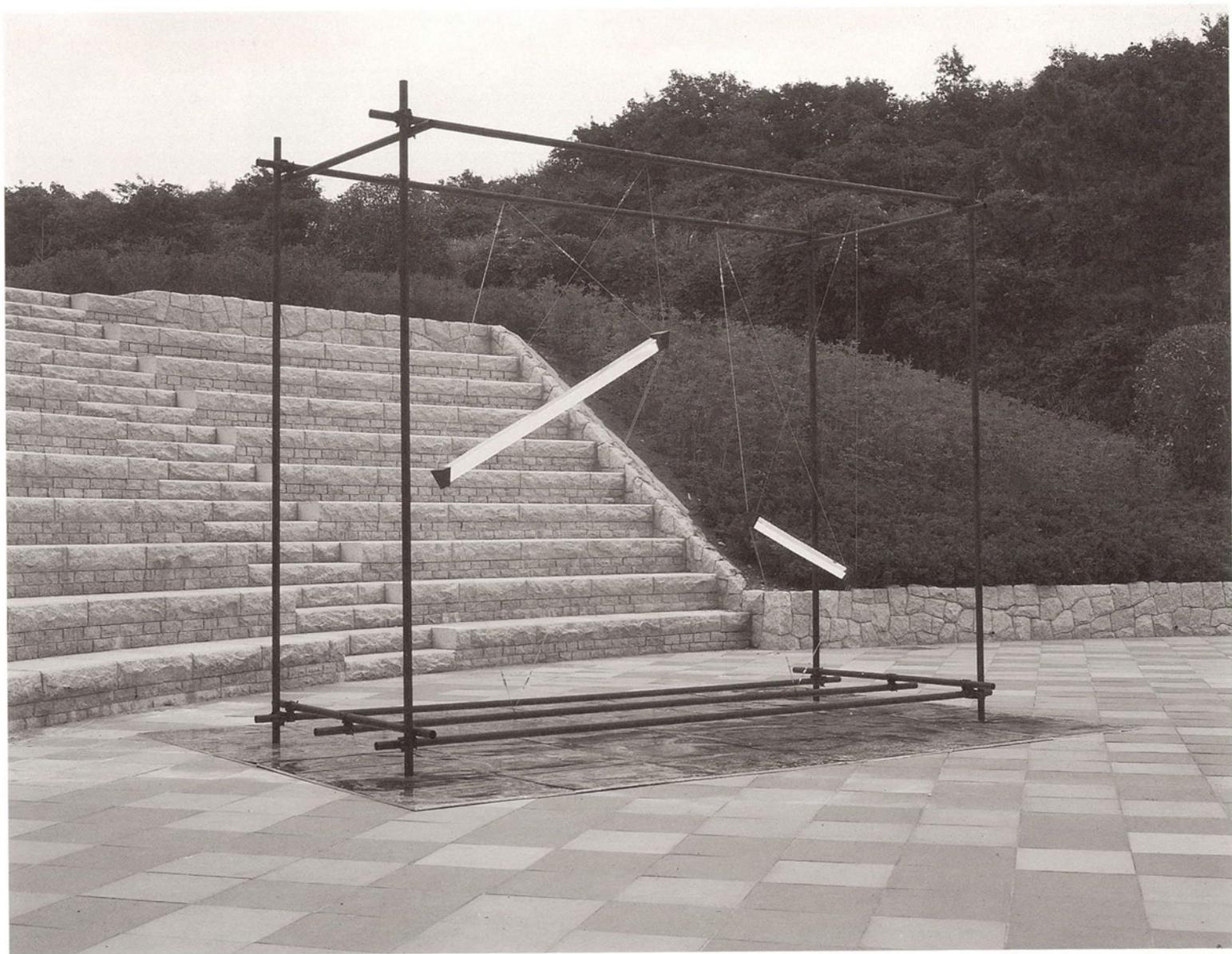
■特別奨励賞 柳澤 欣次 「層」 (彫刻) 180cm×60cm×60cm



■特別奨励賞 渡辺 邦夫 支えられた平面「接点×4」(立体造形)
245cm×130cm×200cm



■相模原市長賞 高嶋 文彦 街角の風景シリーズ「待合室のベンチ」 170cm×300×85cm大理石(野外彫刻)



■優秀賞 鈴木 明 LIGHT-TRIANGLE 350×540×360cm アクリル, 鉄, ステンレス (野外彫刻)



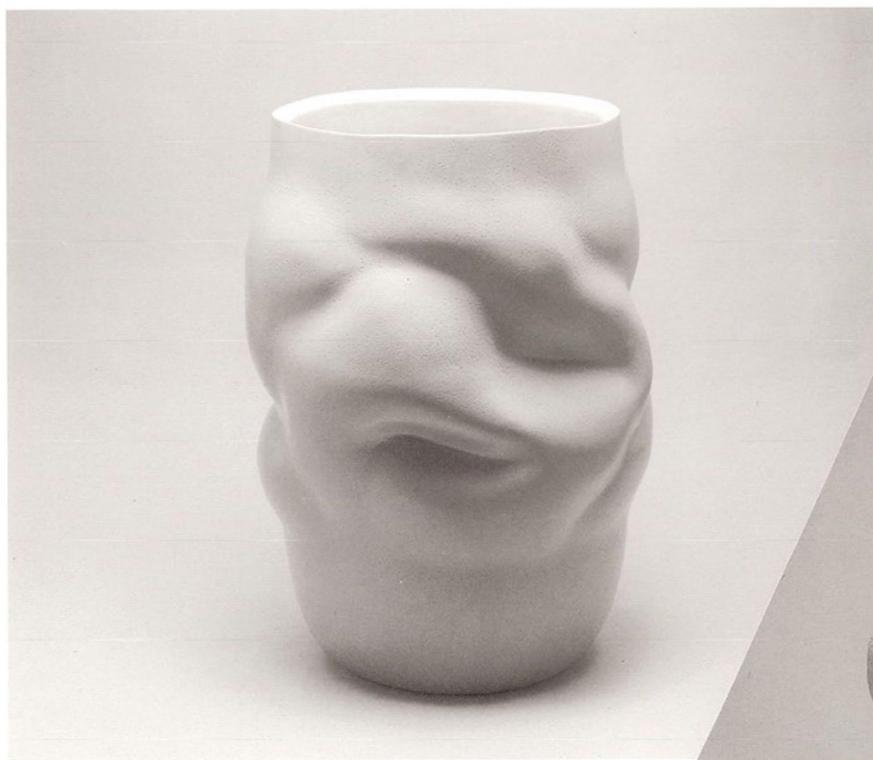
■優秀賞 島田 忠幸 遠日点 160×300×60cm砂 (野外彫刻)



■優秀賞 サナダ サダオ 作品'84=11 126×368×108cm FRPに着色(野外彫刻)



■ 県議会議長賞 小野 政幸 祭りの裸衆 (写真) 55cm×82cm



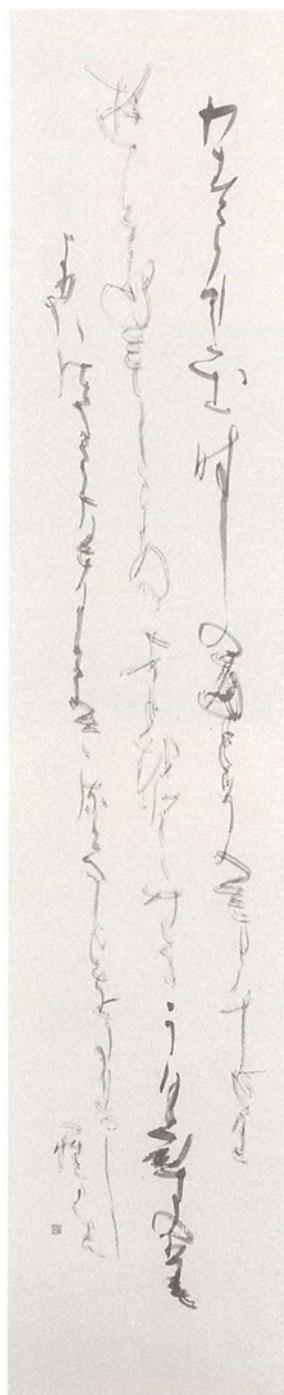
■美術奨学会賞 出縄 高昭 JUENE (工芸)
50cm × 30cm × 30cm



■美術奨学会賞 大湊 一恵 まいまい (工芸) 32cm × 30cm × 25cm



■美術奨学会賞 木下 もと子 横浜風景文着物 (工芸)



■美術奨学会賞 浅野 信子 はまちどり (書)
240cm×60cm

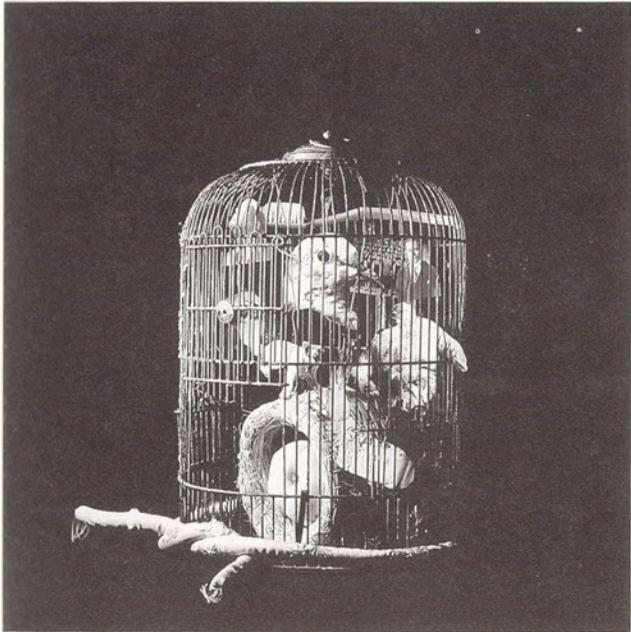
可照芳江
 口成忌梅
 擲晚皎有
 遷盤潔佳
 官雨冰實
 道畫雪託
 滂已空根
 但黃自能
 涉瑤層至
 本升古瑞
 根飛來桃
 在空和夢
 葉盤鼎終
 翔以實不
 果遠此言
 河初物朝
 瀉見打露
 嘗廟僧
 絡廊息
 然最光
 不月孤

撫草
 池田
 撫草
 黃庭堅ノ詩

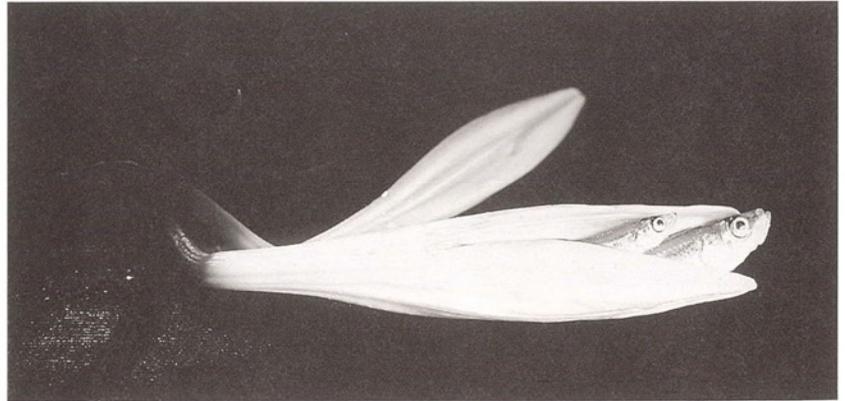
漢史... 孤... 瑞峰... 吉村... 寒山詩多字数作品

■美術奨学会賞 池田 撫草 黄庭堅ノ詩 (書) 240cm×60cm

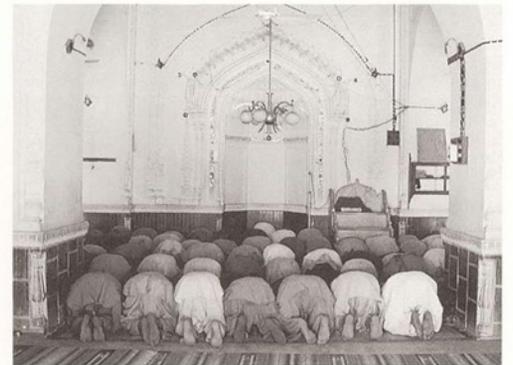
■美術奨学会賞 吉村 瑞峰 寒山詩多字数作品 (書) 240cm×60cm



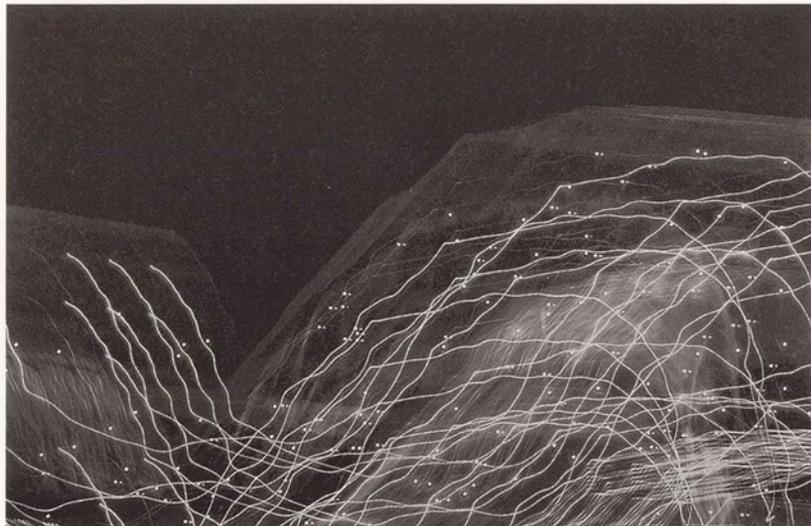
■美術奨学会賞 今 道子 静物3・4 (写真) 160cm×156cm



■美術奨学会賞 本間 英夫 幽遠 (写真) 60cm×90cm 83cm×113cm



■美術奨学会賞 亀井 貫司 イスラム教徒 (写真) 49cm×210cm



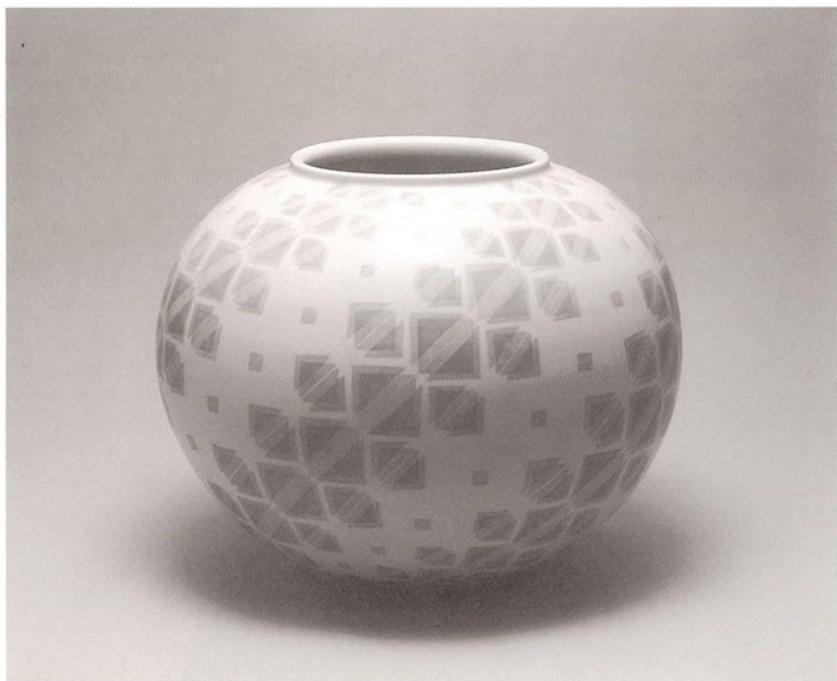
■美術奨学会賞 金子 伸司 MAGIC CIRCLE (写真) 83cm×113cm



■特別奨励賞 佐藤 和香 藍染着物（工芸）



■特別奨励賞 市原 富士子 ジュウリー（ブローチ、リング、イヤリング3点セット）（工芸）



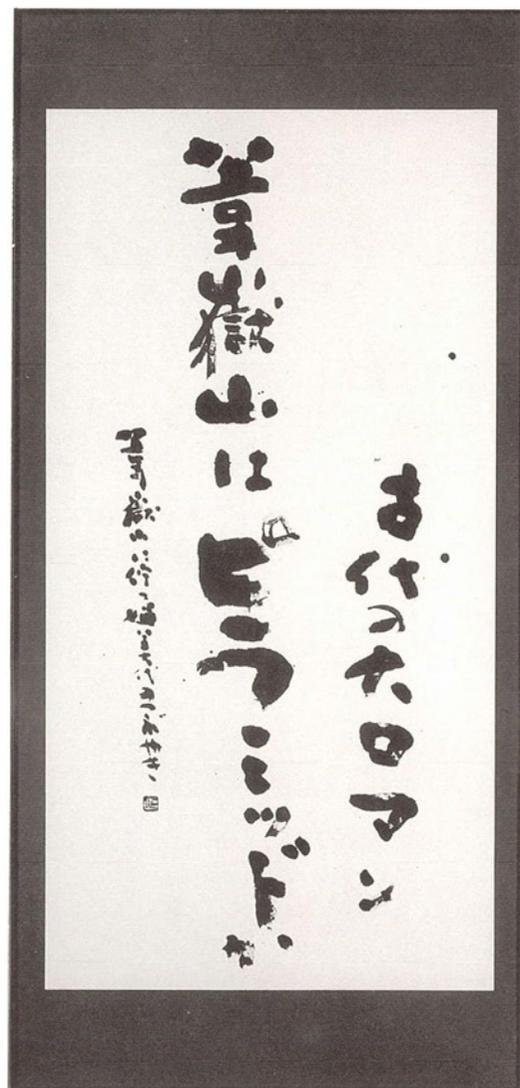
■特別奨励賞 上瀧 勝治 葎光布染彩磁壺（工芸）30cm×37cm×37cm



■特別奨励賞 勝 文彦 凝結（工芸）45cm×30cm×25cm



■特別奨励賞 小野寺 玄 炭化輪積練上鉢 (工芸) 16cm × 57cm × 57cm



■特別奨励賞 渡辺 美代子 華岳山(自作詩) (書) 176cm × 85cm

東風吹我心
 一吹此 答中 被面 聲 嶺上情
 雨後 棠帽 刺江 舟 輕 銅 鑊 聖 祝 李 頃 行 羅
 孩 溪 柳 自 提 什 玉 清 西 嶺 人 為 庭 前 木
 牛 文 公

■特別奨励賞 浜本 艸舟 蘇東坡の詩（書） 180cm×60cm

万葉集和歌一首
 秋 蕙

■特別奨励賞 浅間 秋蕙 万葉集和歌一首（書） 240cm×60cm

歸與官處山青水不遠 尋界多亭 陽嶽亦極相送 日眼穿林紀轉

來星在札散雲空 影去餘年 宿散日局 惜別何尚送下夜

綠嫌花厚嫩人聽 常少請夏應於 鳴樓飯餘在幽鄉

草坡

■特別獎勵賞 森 草坡 菅原道真詩 (書) 240cm×60cm

長安大道遠 伏斜看青白 而七香中玉 聲嘶被遠 意第全 路往歸 向家能 銜寶 善承朝日 風吼流 蘇帶 晚霞 自天 逝餘 爭候 獨一 部福 與共 啼死

履踐 中門 似碧 樹銀 雲萬

種也 後道 之 應 作 合 數 雙 關 連 意 風 葉 翠 幽 閣 天 中 越 漢 帝 會 董 雲 外 道 樓 前 日 豈 不 知 日 月 之 通 証 詔 誥 借 閱 以 歸 同 宗 煙 曾 經 學 薛 展 芳 年 儀 咸 日 何 辭 凡 願 作

銜 寶 善 承 朝 日 風 吼 流 蘇 帶 晚 霞 自 天 逝 餘 爭 候 獨 一 部 福 與 共 啼 死

履 踐 中 門 似 碧 樹 銀 雲 萬

歸 與 官 處 山 青 水 不 遠 尋 界 多 亭 陽 嶽 亦 極 相 送 日 眼 穿 林 紀 轉 來 星 在 札 散 雲 空 影 去 餘 年 宿 散 日 局 惜 別 何 尚 送 下 夜

綠 嫌 花 厚 嫩 人 聽 常 少 請 夏 應 於 鳴 樓 飯 餘 在 幽 鄉

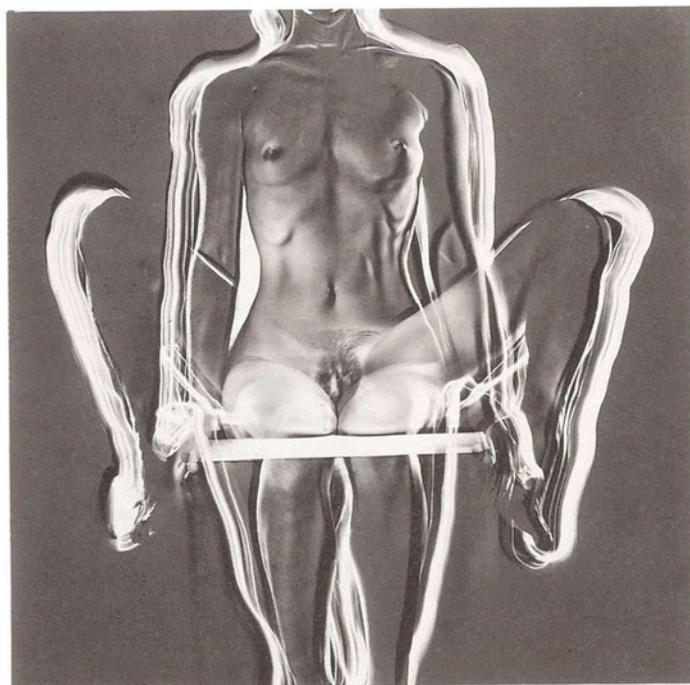
草 坡

盧照鄰詩 光韻書

■特別獎勵賞 立神 光韻 盧照鄰詩 (書) 240cm×60cm



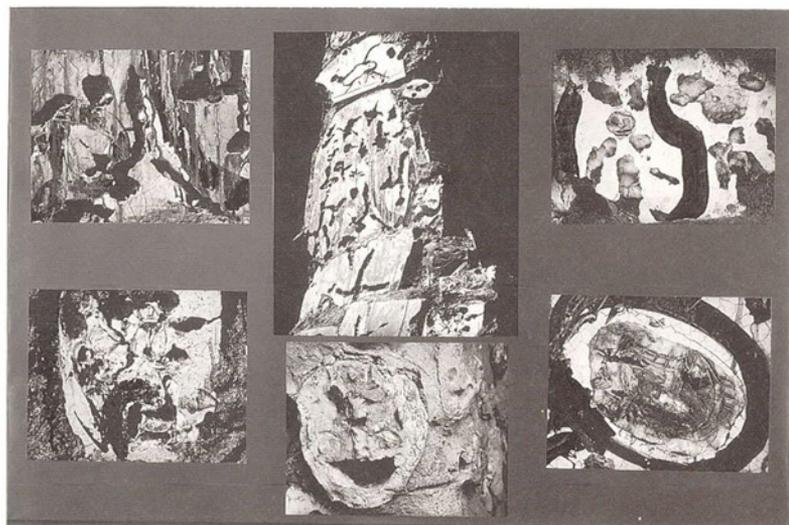
■特別奨励賞 藤浬 正 幻視 (写真) 100cm×120cm × 50cm



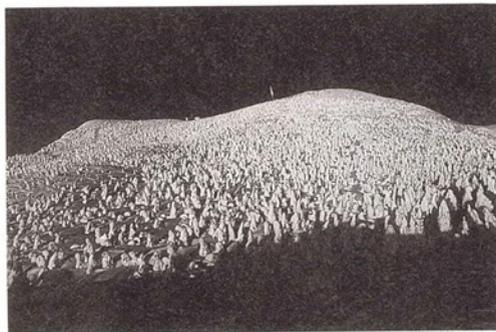
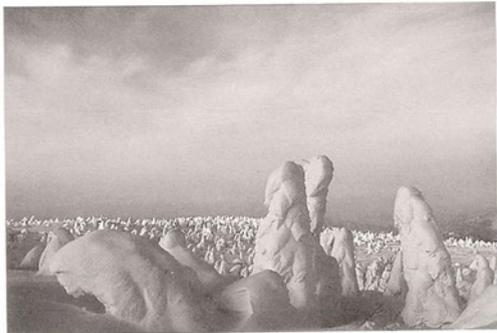
■特別奨励賞 石田 利文 "On the Box" (写真) 50cm×50cm



■特別奨励賞 伊藤 和足 コゲラの親子 (写真) 103cm×73cm



■特別奨励賞 白居 一雄 幼児の世界 (写真) 60cm×90cm



■特別奨励賞 柏倉 信吉 樹氷三景(ZAO) (写真) 73cm×309cm



■特別奨励賞 小野 肇 守護神(ラサ・チベット) (写真) 90cm×130cm

■ 入賞作品目録

■ 入選作品目録

■ 審査経過

■ 大賞受賞者

■ 第20回神奈川県
美術展委員会組織

■ 入賞作品目録

〈日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形部門〉

■ 大賞

東谷武美 日触F (版画)

■ 準大賞

森 一浩 風の風景 (洋画)

梅田勝裕 砂の女 (彫刻)

■ 特選

林 孝彦 閉 II (版画)

和田政幸 擬木 (立体造形)

島田憲一 烈 (立体造形)

■ 神奈川県立近代美術館賞

小林千里 風景 (日本画)

■ 美術奨学会賞

千住 博 西の街 (日本画)

小泉正彦 冬の怪 No.2 (洋画)

星 兼雄 変容一(Ⅲ) (洋画)

李 赫 待つ人達 (彫刻)

窪田俊三 対の吊布 (立体造形)

■ 特別奨励賞

吉岡正人 石の庭にて(B) (洋画)

山口喜弘 氷塊の舞 No.2 (洋画)

塩田和男 Line 4 (版画)

有地好登 雨の古都 (版画)

河口 聖 SPACE No. 101 (版画)

柳沢欣次 「層」 (彫刻)

渡辺邦夫 支えられた平面「接点×4」(立体造形)

〈野外彫刻部門〉

■ 大賞

西 雅秋 CASTING VIEWPOINT

■ 相模原市長賞

高嶋文彦 街角の風景シリーズ「待合室のベンチ」

■ 優秀賞

鈴木 明 LIGHT-TRIANGLE

島田忠幸 遠日点

サナダサダヲ 作品'84=11

〈工芸・書・写真部門〉

■ 大賞

林 巨 クリスタル大鉢“洞”（工芸）

■ 準大賞

高木幸子 もののふの（書）

奈良 巖 A TURNING POINT（写真）

佐藤樹美 悠遠の記（工芸）

■ 特選

豊崎花場 和歌あつめ（書）

■ 県議会議長賞

小野政幸 祭りの裸衆（写真）

■ 美術奨学会賞

出縄高昭 JUENE（工芸）

大湊一恵 まいまい（工芸）

木下もと子 横浜風景文着物（工芸）

浅野信子 はまちどり（書）

池田撫草 黄庭堅ノ詩（書）

吉村瑞峰 寒山詩多字数作品（書）

今道子 静物3・4（写真）

金子仲司 MAGIC CIRCLE（写真）

本間英夫 幽邃（写真）

亀井貫司 イスラム教徒（写真）

■ 特別奨励賞

佐藤和香 藍染着物（工芸）

市原富士子 ジュウリー（ブローチ、リング、イヤリング3点セット）（工芸）

勝文彦 凝結（工芸）

上瀧勝治 葆光布染彩磁壺（工芸）

小野寺玄 炭化輪積練上鉢（工芸）

渡辺美代子 葦岳山（自作詩）（書）

浜本艸舟 蘇東坡の詩（書）

浅間秋蕙 万葉集和歌一首（書）

森草坡 菅原道真詩（書）

立神光韻 盧照鄰詩（書）

石田利文 “On the Box”（写真）

藤樫正 幻視（写真）

伊藤和足	コゲラの親子(写真)
臼居一雄	幼児の世界(写真)
柏倉信吉	樹氷三景(ZAO)(写真)
小野 肇	守護神(ラサ・チベット)(写真)

■ 入選作品目録

〈日本画〉

吉川優 風響く
 野崎和弘 屋(おく)
 高沢かおり 花
 斉藤雅子 夢の花
 本城典子 根底
 飯野静江 星座創世—白鳥
 清水松江 秋色
 松本こま 松並木(1)
 大野廣子 火曜日の夢
 伊藤馬次郎 晩秋
 伊藤三春 鷗
 小島敬介 白日
 伊沢周次 パラダイス
 角村孝則 狂った旋律
 遠山洲平 水槽のある実験室
 青砥昭修 碧の裸婦
 杉松儀一 港北
 伊東良久 洗い場
 香野ルミ子 パリ島—朝市の女— I
 平子真理 海神冥想
 鈴木教子 春未だ
 小松謙一 かの蒼空に……
 樋笠隆 蠅(よう)
 古内久 森音(しんおん)
 加藤敏夫 凝視
 佐藤潔 作品21
 永本秀男 予言者

〈洋画〉

笹井弘 ギャップ(Gap) 1984-05
 阪本幸円 草原に横たわるオムレツ
 工藤彰 就寝の儀式
 松尾裕人 流れる(I)
 滝晴行 削られた山埋められた沼
 丸谷良 ペリカン通り9時5分
 ヤマナマサオ Position B
 柏豊 対岸の家並
 たくし盛男 人間模様 公園
 竹田俊朗 そこここひがしII

吉田嵩 都会II
 大村光 根源ナルモノ
 萩原和子 休日
 大須賀理恵 夏のおぼん
 近藤栄子 Phenomenon II-piu-
 藤沢彦二郎 宅地造成地No.6
 渡部安弘 作品No.846
 山田順子 Work H-2
 水谷香織 想い
 柴山静穂 夏の日
 石川聡 INSTRUMENT-1
 吉濱正雄 紫色の光景
 山本明比古 亜大陸(音の集積)
 舘澤博 永遠と黄昏のために
 長谷川光子 あるライブ風景III
 原雅浩 圧力(Pressure)
 菅原千恵子 博物館(I)
 内田千代子 relation-h
 設楽圭一 鎖-84
 塩川慧子 赤いカーテンVIII「往く…」
 藤井孝次郎 紅'84-祭のあとB
 古道健治 重たい夜
 辻幸子 花の歴史
 田中豊 BUTTOCKS・V
 小林重之 絵画“T”
 青木登史男 沼代平(2)
 出口佳子 大地(想い)
 北条章 浮遊物のある部屋
 太田八洲男 作品84-B
 山本祐司 コンポジション(白)
 鶴見厚子 夢の質感B
 男谷省吾 海風
 山手政男 内造式II
 重田啓子 ある年表より
 犬塚勉 ひぐらしの鳴く
 小平功一 夕やけこやけ
 菅野昌實 スペクトル(B)
 森川信子 流II
 阿部修 夜の深部
 武藤岩雄 S嬢の訪問
 小塚政雄 Painting I
 金昌永 WORK・848

服部昌樹 PAINTING II
 岡崎孝彦 息吹きII
 竹村皓子 地下室
 奥田 紘 空疎な関係
 大久保俊夫 ゲートボール (I)
 尾竹由己 Work-H-1
 黒川 洋 Fig-1
 新井恵子 rotation
 安徳 瑛 白い路の午後
 有田伊都子 côtes du Rhône (コート・デュ・ローヌ)
 舘野 弘 光に向う物I
 櫻井孝美 テーブルのある風景-暑い夏-
 斉藤穂高 PROCESS OF FAN-LEFT
 大槌 隆 太陽のない風景A
 石井 誠 WORK→I
 佐藤直滋 NP-0107-84
 忒原敏彦 発汗No.1
 西川正美 L'œuvre I
 冨樫京子 沈黙のうしろ側
 鏝本純一 STILL LIFE 84-(a)
 サカイトシノリ afterimageII
 山田収一 聲音(きょうおん) B
 宮田翁輔 原風景(二)
 木村敏夫 白夜の花園
 日高義治 鏡面界No.1
 高橋和也 作品1
 佐藤 武 大地
 河上明彦 田園に海からの風
 平良 晃 変容

<版画>

八神和敏 Works 84-F
 仲沢靖夫 空間表現I
 山森由美子 Two lively men in LIBERTY
 行元昭子 ロープのある風景C
 郷 義郎 人物
 小沼隆一郎 コンコルド広場にて-I
 藪 政起 SUNBURN I
 高木信之 春No.1
 利涉重雄 遊歩者は帰った
 宮藤涼一 あの日も確か雨だった

中村マヤ Air Box
 藤原百合谷 子供のための都市空間(I)
 大高 操 板壁の前でB
 後藤秀明 静物 S-VIII
 加藤 聖 Movement No.4
 西野雅子 Torso
 沢田顕子 パイナップルプリンセス
 木戸 均 ON A CORNER OF THE RUINS-5
 八木なぎさ 残像から
 四宮 修 危険な季節 '83-0
 本宮健史 W84-4
 奥井富士夫 M2
 日向野桂子 箱入娘
 高木隆行 BLOCK83-No.17
 五島三子男 That time
 大森薫子 紺色の影
 秋庭宏行 キヤツキヤツキヤツ
 松本テツミ '50その2 (はにほす)
 金光広 死角II
 藤浪理恵子 作品I
 荒木新子 DOUKEI PlanA-III
 白川雅啓 Perception '83. 4-1. from the Y
 滝沢恭司 ふたり
 西川洋一郎 CUTTING BLOCK(I)
 隈部滋子 MY-1984
 小清水量造 outline, 8423

<彫刻>

小野田勝 そら
 池田教親 夏
 安藤志津代 「象」(しょう)
 松原雅俊 White nocturne
 川口シノブ 宵待草
 小泉俊己 西方
 佐々木至 交錯(海にて)
 河原 明 イタリアから来た男
 男谷浩一 男の首
 植木孝二 おんな'84 No.1
 佐々木実 私は美しいか
 酒井道久 月
 西巻一彦 花の女(ひと)

泉 公実子	木精
井上 麦	シャリグラム
中島 実	「かたち」
深作 洋子	蟬時雨
野々山勝彦	屈む人
遠藤 丈太	アトリエは静かだった
岩本 肇	緑風に立てる女
高橋 忠	智子
井上 弘信	理恵ちゃんの像
水島 康宣	ポーズする踊り子
榎木 和喜	K子
夷 芳朗	ゆかり
柴田 正徳	坐る

<立体造形>

広瀬 坦	鉄サビ色
檜 G	源右衛どん
重吉 克隆	無題
白川 芳夫	ダブル2ステップ
倉橋 元治	無題B
小柳 幹夫	unit (wood-A-B-C)
高橋 勉	満たされた内空間
川名 靖彦	Swing of breeze
金井 良子	BLUE
赤松 功	コンクリートの顔
西村 盛雄	八法梅花手
原田 和男	UNDER CONSTRUCTION-2
守谷 春美	無題
山口 俊朗	無題A
大隅 英雄	PROGRESS I
松本 春崇	空間 I
山本 秀夫	こどう
木嶋 正吾	絶対零度D
大串 孝二	原像1
平岡 悦郎	"SCRAMBLE"
加藤 裕三	Work '84 No.4
高橋 洋子	月下
前島 健治	プレス機B988
小室 正光	「Circle O-200L」
坂野 弘政	迷宮への誘い
松本 憲義	原子心田II

赤塚 昌俊	蝕#8402
青野 正	square steel
嶋田起久代	荒れるや
野本 博史	子宮幻想
小林 政雄	VISION

<野外彫刻>

井上 麦	シャリグラム
田中 毅	記念写真
虎尾 豊	STONE STICKS
李 曦	影従
林 武史	共生
勝又 豊子	流転
和久井 Who	TALKING STONES
佐木 謙介	Newton Work '84
塚本 洋守	BASIC PLAN
宮澤 泉	忘れられた空間
鈴木 太加志	咬合
松本 雄治	豊饒の女神
井上 玲子	旅人
望月 久也	Couple
山崎 嘉久	場「残照」
斎藤 史門	12個の立方体
平方 邦行	わ、わ、わ……
吉田 みつ子	Papa
田中 忠夫	コラム-D
佐々木 至	朝

<工芸>

萩本 淑恵	MASK
原田 江理子	夏の庭
安藤 タツ子	うどの花のものがたり
伊藤 かおり	とんでみたいの
平野 朱美	昆虫樹 (こんちゆうぎ)
吉川 則夫	溪谷
中島 光雄	辰砂花器
加藤 静子	細長着 東雲 (しののめ)
加藤 皇	暁
中谷 安子	耳越し番人
内田 悦代	浅い夢

梅本和美 彼方へ
吉崎えり 陽
石井理恵 一瞬からの
石塚操 簡目象嵌鉢
長江松之助 締焼飛カンナ花器
小園博 梅形波崖鉢
南雲竜比古 崩れゆく現代文明(ビル)
長島とよ子 平口塗盛器
菅谷千鶴子 遠望
福岡幸基 グラヴィール桜紋鉢
咲田卑弥子 銀河への憧憬
鈴木貴夫 つちびと
清国律美 漆花文盛器
太田美佐枝 秋の声
鈴木巨 練上壺
橋本公恵 空
斉藤由一 三鳥図(透胎七宝)
細川寛文 残雪
青田圭子 Variegated G and R
大原乾資 縮緬地型染着物
城田美智子 潮騒
金子清 天目細糸文鉢
佐々木達行 三島魚文壺
八重森千賀子 裂(れつ)
柿崎里子 屏風(幾何文様)
井上達 葉光
小山裕子 綴織帯「誘惑」
上平智野子 紬織着物「葎垣」
林菜美 麻といぐさのタペストリー
三輪博子 黎明
渡辺紗多子 黎明
山田御秩子 コンポジションX
岡雅子 蓋物
湯浅正子 ……in spring
島田幸一 青瓷鉢
稗田輝子 「HORIZON」
田野佳代子 春は……
小倉久美子 華彩
八木橋芙美子 豊漁
中村良哉 竹塗菓子器
野中春甫 青白磁大鉢
尾島英雄 鎌倉彫衝立

足立治男 砂の城
佐々木松雄 壺
田中実 黒釉白斑文壺
匹田陽子 絡む
山崎隆雄 むうん
落合正統 クリスタル高台盛器「透谷」
柴崎信太郎 クリスタル飾皿「あけの明星」
堀場洋子 タピストリー
長沢義春 練込壺
永井ひとみ FLASH II
畠本秀彦 竹麗の群れ
斉藤茂 白釉線文壺
中野幸男 潮輪
広瀬祐見 「茜」
青木建二郎 想い
三嶋真美 コンポジション84・廻廊
上田菊明 刺繍帯・四季
中山啓子 WAVE
加納長作 練上流動線文壺
山口和子 オアシスの風
高木参平 BODY '84
多賀ちか 青白磁鉢
川村由海 かすみ草文壺
澤井幸男 練上壺
谷田部君江 しらべ
小野寺和子 モスク着物
遠藤和子 経紵と六枚吉野の飾り布-藍-
水越繁 夕照
高垣篤 青瓷象嵌壺
吉澤澄子 望郷
住江三枝 兄妹
小山照子 曲輪菊醬盆「ガルーダー」
山下敦子 早春
隈元いづみ フェルトタピストリー-歪んだあな-
わた辺きょうこ 有線七宝 つゆ草文合子
坪山紗織 Imagination part I
塩竹輝子 風の記憶
高山春江 西林

<書>

平田十臥 韓愈詩

泉 昭子 大字朗詠集切
増田八重子 重之集より春夏秋冬
河村康子 新古今
浜崎道子 千字文
栗橋東崖 白楽天詩(長恨歌)
安部梅陽 李白の詩
黒田貴西 春日閑居
滝口仲葉 蘇軾詩
飯田美砂子 和歌四首
矢追章子 三日月湖
佐野修子 見わたせば
岩川千恵子 三十六歌仙抄
吉田照子 春の海
平間愛子 小島切
飯田夜想 山吹
三浦桂葉 十番歌会
馬場虹苑 近代詩文 星野富弘詩「らん」
梅田昌葉 室生犀星の詩「くらげ」
広川心斎 宮沢賢治の詩
水野裕子 三好達治の詩「さるすべり」
沢田剛明 山雀(野口雨情の詩)
小田川大岳 新潮
土田武子 古い港に
住本稀芳 かもめ挽歌
中村よゑ さようなら
大木明子 人があそぶ
石川龍雲 石原信一詩「越冬つばめ」
佐藤春水 堀口大学の詩
綿貫吉野 ころろ
穂坂美代子 断章
安田達子 花影
松田多恵子 八木重吉「ある日のころろ」
関根玄道 近代詩文書
森山可余 秋の瞳「息を殺せ」
石井富代 長持唄
荒巻久恵 生方たつゑの歌「あくがれるもの」(近代詩文書)
薩川弘 中原中也の詩
問馬敬竹 「黒部峡谷探勝」の渡辺岳神詩
清水金次 北原白秋の詩
萩村迎与 「サルビア」
川瀬魚石 仏法僧(島田芳文詩)
上村仙石 おぼろ月夜(文部省唱歌)

斎藤湖石 「河流」堀口大学の詩
滝沢秀石 北原白秋の詩「落葉」
千葉琴玲 源氏物語「柏木」
野田翠蘭 「伊勢物語」より
三原和子 この朝
鈴木香旗 唐詩 香炉峰之詩
三上光雲 張遷碑
宮坂詩有 醉翁亭記(張瑞凶)
三津木芝影 杜甫詩
菅原秋峰 礼記
河合瑞祥 彭衛行
尾家黎崱 王漁洋詩
山口清晴 王摩詰詩
田尻京子 黄山谷詩
黒田杪崱 李嘉祐の詩
吉田春翠 黄遵憲詩
内海祥月 杜甫詩「晚出左掖」
横山芳碩 黃庭堅詩「次韻伯氏長蘆寺下」
鈴木香潭 鞆川の積雨
外山翠崱 杜甫詩
石田峯心 杜甫詩二首
竹俣華崱 蘇東坡詩
神谷芝崱 杜牧詩
小巻仙空 白楽天詩
大島謙介 伝山臨書
林秀竹 杜牧詩
川島喜代美 秋思
土川幽洋 江行
今井幽耿 春夜洛城聞笛
杉山幽翠 牛瀑丹楓
福井幽紅 天門山を望む
深松三光 宴辺将(張喬)
木根内華恵 心耳
内野啓子 蔵
菊池崔右 錢別(大江朝綱)和漢朗詠卷下
鈴木美翠 七言絶句(月夜)
新井青谿 江南旅情
中村小葉 夜泊江口聞笛寄家兄西樵
黒坂春香 和泉式部集統集切甲類
棧敷東石 和歌一首「月影」
沓掛和絵 旅の塞 空
赤松万寿枝 古今和歌集抄

岩村青園 わが心
 近藤青匡 音羽山
 村瀬青珠 音羽山
 服部青昌 秋風
 関口青霞 おく山に
 鈴木青紫 花栲
 駒瀬青花 住の江
 叔芳扇 淡海のうみ
 森田芳苑 三吉野
 伊藤青光 星
 東海林青鳳 わたの原
 長谷川かつみ 王維詩贈徒弟司庫員外綵
 鈴木蓉処 蘆編詩
 磯村深処 白樂天詩
 柴岡明洞 袁宏道詩
 生嶋静月 王安石詩
 府川泉処 岑參詩
 菅野堯処 岑參詩
 谷口春泉 駱賓王詩
 田沢兆処 曹植詩
 佐藤柚処 李長吉詩
 尾崎静鳳 蘇軾詩
 武田瞳処 趙嘏詩
 石田治代 杜子美詩
 近藤粹処 岑參詩
 玉井佳香 蘇東坡詩
 武川明子 杜子美詩
 今井柳潭 李頎詩
 藤原邦子 白樂天詩
 馬場口明春 李白詩
 吉川橙処 白居易詩
 石坂梓棠 李白詩江上吟
 嵐小丘 削觚處印存
 吉田翠山 張說詩
 関口蘭香 殷堯藩詩
 千代浦江処 李頎詩
 赤松園処 陳子昂詩
 篠原湖松 雙殉行竹添井文詩
 鎌田柵処 温庭筠詩
 波谷莊江 山石
 松井莊園 唐詩
 小山莊雪 田家三首選二首

神藤莊松 王漁洋詩
 小島美子 岑參詩
 関口美鶴 橡媼嘆
 鈴木静耕 沈佺期詩
 佐藤裕子 唐詩
 紙崎玉澗 王漁洋詩
 小山搗雲 唐詩
 田村秀亭 王漁洋詩
 野頭莊雲 王漁洋詩
 若林花泉 唐詩
 鈴木天鳴 杜甫詩
 石関崔麗 陸游詩
 佐藤秋泉 温庭筠詩
 大塚翠峰 張瑞圖
 奥翠月 金冬心
 阿部跳龍 唐詩
 杉山紫苑 李煜詩
 鳥海紅蘭 王維詩
 西田静夫 飲中八仙歌唐詩
 高橋松道 漱石漢詩
 嘉島宏子 唐詩「李頎の詩」
 増田溪雪 夕顔
 長島正恵 万葉集三首
 早瀬香谷 良寛詩
 江藤紘子 王維詩
 明石惠州 田安宗武の歌一首
 秋重恵永 木下利玄の歌
 飛田恵風 斎藤茂吉の歌 和歌一首
 横山恵静 若山牧水の歌一首
 小沢恵芳 土屋文明の歌一首
 浜辺呂鳥 臨筋切
 伊賀田蒼穂 臨書 香紙切
 松田松逢 かな万葉集十巻和歌一首
 美和肖光 臨本阿弥切
 川手敬湖 万葉集の歌
 萩原華徑 臨西本願寺三十六人集齊宮集抄
 秋山尚悦 古今和歌集の歌
 脇本晃華 臨針切
 北島芳谷 太子刷護経
 荒井寿逕 張九齡詩
 中村蒼汀 劉廷芝詩
 瀬戸華逕 蘇東坡詩

小川如泉 沈佺期詩
 田中まり子 白楽天詩
 中村暁雲 劉禹錫詩
 篠原圭苑 李賀詩
 黒田香影 明倫歌集
 松岡梅影 百人首
 木戸梢光 古今集 旅のうた
 吉川蕉雨 建礼門院右京大夫集より
 山辺静塘 和歌四首
 中村翠葉 高野切二種
 高橋蘭径 和歌七首
 郷治雅子 古今集 秋の歌
 新井素光 方丈記

<写真>

上原公平 桂林の印象
 沼田隆 斜陽(1)
 小峰鉄介 夕景
 小野留吉 「鉄路保安要員」
 山本潤一郎 若者の宿(飛驒白川郷)
 葛西清悦 浄土への願い
 加藤種雄 カマキリの誕生
 三鍋正男 ロッテルダムの街かど(オランダ)
 木村延男 ネコヤナギ
 わた辺きょうこ ガンバレ!!全盲の浩ちゃん(1年生から6年生までの記録)
 内田幸夫 川面
 露木修一 晩秋の彩
 木村久子 卒業式
 清水啓一 幽
 勝俣晃男 秋色
 北本幸一 入塊
 石川文夫 彫刻ざんまい
 横山保光 女の綾線
 梶 渚 初秋
 淵辺秀男 多摩川霧景
 村上昭子 南の島の人々
 立川昭彦 白い飛翔
 深海誠 C'est la vie
 鶴殿賢一郎 少女
 男谷浩一 三宅島阿古
 青木博 戯れ

春宮寛治 着水
 君田淳一 腕白小僧
 片岡弘 待ちぼうけ
 川口弘純 激走
 手塚侑江 白い桜
 高橋元哉 春雪の舞
 望月勝美 赤い手、青い手
 松浦好雄 二年生は二人だけ(愛甲郡清川村宮ヶ瀬小学校)
 片岡順一 飛翔
 原島敏彦 霧流
 中西栄造 魚がしの顔
 佐々木孝義 原宿の映変り(1980~84)
 仁平廣 雀の里
 松永清男 火祭り(厚木飯山観音)
 木村杏平 夏の記憶
 向山英一 心象嶺
 人見治雄 花火千夜一夜
 萩原新八 インドの村にて(組)
 // (1) 風景
 // (2) 娘たち
 // (3) 木陰の母娘
 // (4) ジプシーの男
 福井歩 if

■ 審査経過

<日本画>

日本画の入選作品選考の場合、応募作品を全部一堂にならべてみることができたので、かなり公正に選出できたのではなかったかと思われる。

つまり、最初から最後まで、他の作品と比較しながらえらぶという利点があったし、個々の出品者の制作意図や社会的発言の軽重の差などなど、考慮しやすい状況にあったのである。

したがって第一次選考では、まず、制作意図のよくわからないものが姿を消していった。何を描きたいのか、何をいいたいのかという、制作上もとても大切な、最初の出発の認識の深淺さが問われたのである。

そして第二次選考では、これらの意図がいかに表現され得たかという観点をもって選出されていった。技術がうまいからよいというのではなく、技術的に多少稚拙であっても、表現したいことへのパッションがひしと伝わってくるものはもちろん残されたのである。

それだけに第三次選考では、陳列壁面の都合で二十八点前後の入選決定という厳しい選出のため、甲乙つけ難い作品であったにもかかわらず選にもれるという不運のひともでるといって結果になって、まことに残念な状況もみられることになった。

以上のことから本年は、ずば抜けてすぐれた作品はなかったにしても、併列的に質の高いものがあつたといつてよい。それだけに賞候補の選出も、長時間にわたり難行したのであつたが、結局、現代の複雑な繁栄をみつめる伊沢周次「パラダイス」、喧噪な現代のながの孤愁を描く千住博「西の街」、小林千里のコラージュを加えた現代感覚の「風景」、新たな装飾性に挑む飯野静江の「星座創世-白鳥」、現代風俗を素朴な感覚で捉える香野ルミ子「パノ島-朝市の女」-となった。

だが、各部門からの選考委員が集つての大賞以下の賞決定は、投票による選出のため利あらず、小林千里の県立近代美術館賞、千住博の美術奨学会賞にとどまってしまった。

弦田平八郎

- 審査員 片岡球子・加藤東一・工藤甲人・弦田平八郎
- 搬入点数 111点(89人) ● 入選点数 29点(29人)

〈洋画〉

今年は二十回記念展で全国公募にしたことから、昨年の482点を大きく上回って735点。ここから87点の入選であるから、かなりの厳選であった。さらに7点の賞候補を選んだが、県内は、いわば常連ともいべき二名で、他は県外であった。これは、洋画部門に限らず、他の部門にも共通した状況のようであったが、県展としては、良き刺激、つまり井の中の蛙の非力さの実物教育といった面をはからずも示すこととなった。

ところで、7点の賞候補作品が5部門を通じての授賞審査でどれだけ認められるかを思うと、心もとなかった。森一浩「風の風景」を除く6点は具象画であるが、いづれもが単なるダブル・ナチュラルを排して、一工夫をこらしている。小泉正彦「冬の怪」、吉岡正人「石の庭にて」がより自然に即そうとし、星兼雄「変容」、山口喜弘「氷塊の舞」、北条章「浮遊物のある部屋」、桜井孝美「テーブルのある風景-暑い夏」がより構成に意を用いている違いはあるにしても、画家と画面との緊張感-この画家にして、この画を描かねばならないという必然性を感じさせる力が弱い。たまたま、星と小泉は県展で以前から見ていたから、一貫したモチーフの追求であることはわかったが、星は、そのシュール的な構成で何を示そうとしているかが不明だし、小泉の細密描写は、小細工的な構成を弄しない方がよかった。吉岡のは、面白くも、おかしくもないけれども、これに徹すれば、という意味では、小泉への示唆になっているかもしれない。桜井と北条には、たまたまの試みといった軽さがあり、山口に素直な対応を感じた。森一浩の抽象仕立ての画面には、それなりの雰囲気があって、あるいは、と思ったが、これだけが準大賞3点のなかに入った。

いづれもが技術的には、水準に達しているのであるが、問題はやはり、画家の内面的な燃焼度であることを、この県展でも、覚えることとなった。

匠 秀夫

- 審査員 奥谷 博・陰里鉄郎・國領経郎・匠 秀夫・富山秀男・渡辺豊重
- 搬入点数 735点(407人) ●入選点数 86点(86人)

〈版画〉

今年の神奈川県美術展は、本展20周年を迎え、広く県外からも公募した結果102人による234点の版画の応募があり、昨年の69人、162点の応募をはるかに上回ったが、展示スペースは昨年と変わらないために入選作品40点の厳選となってしまったが、応募作品の中から落してゆく私達の作業も勇を鼓しながらの連続であった。最後に賞候補4名とその補欠1名を選んだ。

選後の感想を書いてみると、一昨年、昨年と同様にハッとする程のクリエイティブな作品が無かったことはさびしい。全般的な技術は年を追って上昇するが、それに対する作家の造形意識が低いことが目立った。実際に平面の構成力の問題とか、それを支える作家の哲学といったものが版画を作品たらしめるのにも係らず、そう云ったものを感じさせ考えさせる作品が少なかったのは時代が軟弱なせいかな等と考え込んでしまう程である。

今はかなりの新人賞公募展があると思うが、表面的に瀟洒であったりモダンであったり情緒的であったりする作品をとりあげることよりも、本審査に於いては技術は稚拙でもコンセプトという土台をもった作品もとりあげていくことによって、その周辺に花も咲くことが出来るのではないかという希望を持ちたかった。

版画は他の造形芸術と比べる時、技術的には作家自身の表現が間接的になる。その為に制作のプロセスの中に作画の上でより多くの思わぬ発見や効果を生み出し易いが、そういったものを安易にとりあげていくことで内容をおろそかにするようでは、他の造形美術と同等に評価されることはないであろう。今回、受賞候補となった作品は、作家のコンセプトと技法が他の作品よりも一致していたと云える。

島 州一

- 審査員 斎藤 清・斎藤壽一・島 州一・吉田克朗
- 搬入点数 234点(102人) ●入選点数 41点(41人)

〈彫刻〉

20回展、全国公募と云うことで、審査員は、大きな期待をもって臨んだが、同時期に野外展が開催されるので、その方に力が削がれたのか、会場に足をはこんだ時点で、一寸がっかりさせられた。出品者数、出品点数はそれでも、昨年に比べて若干増えてはいるが質の内容と、大きさや迫力が劣る。その中で、準大賞を受けた梅田勝裕氏の石彫「砂の女」は、黒御影石のもつ強さに、トルソーの塊としてのつかみ方がよい。柔かな皮膚感が卑近にならずに、おおらかな女性像となって好感がもてた。

美術奨学金賞を受けた、李赫氏の「待つ人達」は、作者の故国の老女であろうか、二人の何気無い姿で、独特の雰囲気醸し出されてはいるが、それだけに絵画的表現になり、彫刻としての力が弱まった感じがする。二人の人物の組合せには、構成力・空間の処理・力の配分・強調・省略等に意を注ぐ必要がある。

特別奨励賞を受けた、柳沢欣次氏「層」の作品は、オーソドックスな仕事である。動的表現や人体を量感でとらえている上に土のつけ方等にも仕事の積み重ねが感じられる。ただ、今後、個性的な作品へと発展されることを望んでいる。

其他二・三点賞候補としてあげたものもあったが、全般として、彫刻としての量感、塊としての表現に弱かったり、構成力に欠ける作品が多く、来年に期待したい。抽象作品は、昨年に比べて数は増えたが、特筆すべき作品は見あたらなかった。野外展の方に出品したのであろう。

最後に、今年は野外彫刻展も開かれることになり大変喜ばしいことである。県民に、彫刻とは何か、生活の中の彫刻を肌身で知ってもらえるこの企画を今後も続けてもらいたいと願っている。

小島 弘

- 審査員 井上信道・圓錐元規・小島 弘・三上次男
- 搬入点数 67点(52人) ● 入選点数 29点(29人)

〈立体造形〉

私にとっては初めての審査であった。従って、前年との比較はなすよしもないが、私には比較的力作が多いように感じられた。

こういうコンクールの場合、いわゆるインスタレーションによる作品はどうしても出品しがたいものだが、変にひねったり、奇抜さをもくろんだり、あるいは力みすぎの作品が少なく、どこことなくインスタレーション的要素を含んだ、軽快さを感じさせる作品が多かった。

軽快さというのは、作品にマツジグな感じが少ないことで、たとえば特選の島田憲一の大きな木を折った作品でも、エネルギーの流れを感じさせるけれども、重々しさは感じさせないといったことなどその好例になるかと思う。

同じ特選の和田政幸の鉄による作品も、シルエット風のかたちを特徴づけている。

立体造形からはさらに、窪田俊三、渡辺邦夫の作品が受賞したが、前者は布、後者はビニールが主要な素材になっているもので、これらは文字通り量塊としての作品からは程遠いものである。

ちなみに今あげたこれらの作品はマツジグでないから注目されたというのではなく、軽快さの目立つ今年度の作品の中でもとりわけ快作だったことによることを付記しておきたい。

- 審査員 倉重光則・斎藤義重・中原佑介・原口典之
- 搬入点数 163点(122人) ● 入選点数 35点(35人)

〈野外彫刻〉

神奈川県美術展は、今年で20回目を迎えている。

この機会に、新しく開設された相模原公園のオープン・スペースで野外彫刻のコンクールを行ない、公園を彫刻作品で飾ろうという計画が生まれた。はじめての試みであり、その成果が危ぶまれたが、結果的にはなかなかの盛況であった。

マーケットやプランによつての選考ではなく、作品を現場に持ち込んでの審査であったために、作家にとっては相当の負担になったことと思われる。

応募点数は66点と、それほど多くなかったのはこのためであろう。しかし、作品内容は質的に相当に高いものをもっており、野外に設置するという目的を各作家たちが、的確に意識していたことが窺われた。

応募された作家たちは、会場の関係などから、東京、神奈川が中心となっているが、富山、岐阜などからの参加もあった。

年令は、30才台の人たちが多く、続いて20才台で、これからの日本の彫刻界を背負っていくゼネレーションの作家たちであろう。

素材は、石が多かったが、金属、木、合成樹脂によるものもあり、具象的な作品も目立っている。

選考の規準になったことは、勿論、造形的な力強さ、豊かなイマジネーションなどであったが、野外彫刻がもたなければならない堅牢性、景観との調和なども考慮された。

最終的には25点にしぼられ、そのなかから大賞1点、相模原市賞1点、優秀賞3点を決定させていただいた。選考の終過のなかでは、委員たちは自由な発言で討論し合い、全員の合意の上で入選、入賞をきめていった。

大賞は、西雅秋の「CASTING VIEWPOINT」である。公園の遊具を思わせる作品であるが、組み合わされた三本の木柱と、大地と平行に延びた鉄棒によつて領有された大きな空間は、野外彫刻としての実在感をもっている。いくつかの野外彫刻展に出品してきた中堅作家である。

高嶋文彦「街角の風景シリーズ・待合室のベンチ」は、置き忘れられた鞆と帽子のある写実的な作品であるが、詩的な抒情をもっている。

鈴木明「LIGHT-TRIANGLE」のプリズムの効果、島田忠幸「遠日点」は、砂を素材としてそれぞれ意外性をもっている。サナダサダオは、端正な幾何的な「作品'84=11」で受賞した。

いづれも異なった素材の作品であるが、強い個性と鮮やかな感覚をもったものである。これからを期待したい。

柳生不二雄

- 審査員 酒井忠康・針生一郎・三木多聞・柳生不二雄
- 搬入点数 66点(64人) ●入選点数 25点(25人)

〈工芸〉

今回の工芸部門は、208人による260点の応募があった。内訳は、1点のみの応募者が169名、2点が26名、3点が13名で、審査は8月22日(水)9名の審査員によつて行われた。そして先づ第1次選考で、2点以上の応募者39名の作品91点に対し、挙手による多数決でこれを1人1点の39点に絞り、1点応募を合せた208点を残した。

第2次選考は、この208点に対し、1点ずつ挙手による鑑査を行い、5名以上の支持を得た86点を入選、4名と3名の支持を合せた30点は保留として残り、2名以下は落選とし、次いで第3次選考では、保留の30点に対してこれを支持する審査員の説明などを加えた懇切な再審査が行われ、その中の15点が挙手による多数決で復活した結果、入選101点、落選107点が決定したのである。

その後、入選101点の作品に対して、各審査員が各自5枚の記名票を夫々作品の前に置く方法で授賞作品の選考が行われ、得票数の上位から10点が浮び上り、さらにそれらの作品を対象に今度は各自2枚の記名票を審査員が投じることで、上位2点が大賞候補作品に決定した。

大賞1点及び準大賞3点の選考は、工芸、書、写真の3部門から夫々選出された2点ずつの計6点の大賞候補作品に対し、各部門から2名ずつ出席した6名の審査員で投票による審査が行われたが、その結果、大賞と準大賞を今回は工芸部門が獲得するところとなったのである。

大賞を見事受賞した林巨(横浜市鶴見区)の「クリスタル大鉢“洞”」は、切子と磨りの幾何学文様をあまり表面に出さず、むしろクリスタル独特の屈折の良さと美しい透明感を鮮明に表現している点と、また作品から漂って来る風格の高さが認められたのだと思われる。ちなみに“洞”とは、広く大きなひろがりの意味で、作者は現在、チーフ・デザイナーとして各務クリスタルの商品企画室に勤務する45歳のベテランである。そしてまた、準大賞を得た佐藤樹美(小田原市)の「悠遠の記」は、木綿地に藍染と真汁で巻貝をモチーフとして作者の心象を謳いあげた染色画の大作であるが、化石から現代の巻貝に至るまでの悠遠な時間の経過を、海と空を背景にして4次元的な壁面画を構成している点が評価されたのであろう。作者は現代工芸美術展及び日展に出品している55歳の工芸作家である。

吉田耕三

- 審査員 (故)赤地友哉・赤堀郁彦・市橋とし子・江刺栄一・各務鑽三・佐藤もとい・永井鉄太郎・南雲 龍・長谷部満彦・吉田耕三・吉田丈夫
- 搬入点数 260点(208人) ●入選点数 101点(101人)

〈書〉

本年は県美展として第20回展を迎えることになり、然も全国展と銘打って催されることはまことに御同慶に耐えられません。顧りみて、歳月の経緯と共に本県の美術文化行政の中核として県美展が果たした実績は大なるものがあると思料されます。吾が書部門と致しまして、多くの新人の育成とその前途を見守りつつ歩んだ実績は評価されるものと思います。

本年は出品者も増え、その為に入選率も昨年より更に厳しいものとなりました。作品内容については特に仮名作品に優れたものが多く出品されて、上位入賞に推されました。これは茲数年来仮名の出品階層がふえて、内容的にも臨書作品が減り、自運の作品が増えた現象も出品層のレベルの向上を跡付け、故なしとしません。又、漢字部門は茲1、2年は若手低迷気味でしたが、本年は作柄が多様化して来たことは好ましい状況であり、更に近代詩文書部門の中に独創性に富んだかなりの秀作を見ることが出来ました。

如上、今回の審査に当たっての所感であります。四割弱の落選の浮目を見た方々の作品の中には相応の出来映えのものもあり、数の制限の中に於てはやむなく落さざるを得ない苦渋の審査であったことも附記しておきます。

殿村藍田

- 審査員 伊藤撫剣・久保田昭子・菅原寿雄・竹田悦堂・溪口幽城・殿村藍田・西川万象・吉田蘭処
- 搬入点数 307点(307人) ● 入選点数 192点(192人)

〈写真〉

第20回神奈川美術展は全国公募として注目された。応募点数も昨年度より多く322点、出品者も155人であった。5人の審査員によって第1次から第3次による厳正な審査が行われた。昨年度75人の入選者に対し、今回は57人という、これまでにない厳しい審査であった。厳しくしたことは昨年にくらべ水準が低いわけでない。むしろ高い水準であったが、美術展の権威にかかるといったこれまでのサロン調や一般的な概念をとりのぞいた審査員の強い意志の表われであった。全国公募だけあってクリエイティブな作品が多く、これまでにないきわめて新しい技法を取り入れた斬新な作品が目についた。

準大賞の「A TURNING POINT」奈良巖(東京)は、現代都市文明の不安、恐怖を表現したもので、1つのコラージュ技法を巧に生かした斬新な作品で、内容的にも充実している。県議会議長賞の小野政幸(神奈川)「祭りの裸衆」は、赤い色彩も効果的で、スローシャッターによる人物の流れが祭典の雰囲気をかもし出したリズム感のある作品だ。美術奨学会賞の今道子(神奈川)「静物」は、鳥籠の中に自己の趣向を生かした創造的なイメージによるコラージュで表現した。本間英夫(神奈川)「幽邃」は、夕暮れの湖畔を背景に赤い一輪の花にストロボを同調させた詩情のある作品だ。金子仲司(神奈川)「MAGIC CIRCLE」は、光のファンタジーを巧に生かしたリズムミカルな色彩を描いた美的な作品である。亀井貴司(神奈川)「イスラム教徒」は、巡礼の場面を連続にとらえた宗教の断面を的確にとらえた。特別奨励賞の石田利文(大阪)「ON THE BOX」は、ヌードフォトグラフィの独創的な感覚で創作した新鮮なテクニックで表現している。藤樫正(千葉)「幻視」は、水面の模様を抽象的に描いた美の幻想である。水面の色彩とがうまく調和した。伊藤和足(東京)「コゲラの親子」は、餌をあたえる瞬間を見事に捉えた野鳥の生態を的確に表現した。特別奨励賞の臼居一雄(神奈川)「幼児の世界」は、幼児たちが、ねんどどいやくや絵具を何べんとなくぬり重ねた絵だが、面白い抽象画のようだ。対象を物としてでなく見る人の感覚による幼児たちの純粋な美が表現された。小野肇(神奈川)「守護神・ラサ・チベット」は、チベットの守護神を的確なカメラワーク、シャープな描写力で力強く捉えた迫力のある見事な作品である。柏倉信吉(山形)「樹氷三景」は、樹氷におおわれた蔵王三景だが、気候変化による現象の一瞬を見事にとらえた白銀の世界を描いた。準大賞の「A TURNING POINT」や「静物」「ON THE BOX」などの作品は、ニューウェイブ「新しい現代写真」の領域で、写真は“撮”る時代から“創”る時代に入っているようだ。

浜口タカシ

- 審査員 五十嵐英寿・奥村泰宏・重森弘淹・田中雅夫・浜口タカシ
- 搬入点数 322点(155人) ● 入選点数 117点(57人)

■ 大賞受賞者

-
- | | | | | | |
|------|------|----------------------------------|------|------|-------------------------------|
| 第1回 | 40年度 | 大森運夫「九十九里」《日本画》 | 第18回 | 57年度 | 小泉正彦「冬の木」《洋画》 |
| 第2回 | 41年度 | 廣瀬義男「作品I」《洋画》 | 第18回 | 57年度 | 井上隆敏「イグナドバ選手」《写真》 |
| 第3回 | 42年度 | 垣内治雄「坐る」《彫刻》 | 第19回 | 58年度 | 井上 麦「土の系譜」《彫刻》 |
| 第4回 | 43年度 | 川村直子「'69-A・'69-B」《洋画》 | 第19回 | 58年度 | 茶木静谷「竹聳松影」《書》 |
| 第5回 | 44年度 | 山井イク夫「Lady70-1・2」《立体造形》 | 第20回 | 59年度 | 東谷武美「日蝕F」《版画》 |
| 第6回 | 45年度 | 伊藤 林「天涯巡礼」《日本画》 | 第20回 | 59年度 | 西 雅秋「CASTING VIEWPOINT」《野外彫刻》 |
| 第6回 | 45年度 | 大久保利窓「Straw」《工芸》 | 第20回 | 59年度 | 林 巨「クリスタル大鉢“洞”」《工芸》 |
| 第6回 | 45年度 | 西川万象「廬子諒詩」《書》 | | | |
| 第6回 | 45年度 | 加賀谷武男
「にっぽんNONSENSE ZONE」《写真》 | | | |
| 第7回 | 46年度 | 中西新太郎「落日」《洋画》 | | | |
| 第7回 | 46年度 | 島津碧崙「寒山詩」《書》 | | | |
| 第7回 | 46年度 | 大谷正夫
「師ミス・ザンダー(フェリス女学院)」《写真》 | | | |
| 第8回 | 47年度 | 佐々木英夫「人間の風景1・2」《版画》 | | | |
| 第8回 | 47年度 | 林 良達「騎士」《工芸》 | | | |
| 第9回 | 48年度 | 河原 明「蜻蛉」《彫刻》 | | | |
| 第9回 | 48年度 | 石川充宏「Girl in chair」《工芸》 | | | |
| 第10回 | 49年度 | 大山 鎮「語り」《日本画》 | | | |
| 第11回 | 50年度 | 鎌田恵子「Lost my way」《工芸》 | | | |
| 第12回 | 51年度 | 泉谷淑夫「愁傷のモニュメント」《洋画》 | | | |
| 第13回 | 52年度 | 井上 麦「黒の女-'77」《彫刻》 | | | |
| 第14回 | 53年度 | 坂田一之「MIRROR」《立体造形》 | | | |
| 第15回 | 54年度 | 前本利彦「暗い部屋I・II」《日本画》 | | | |
| 第15回 | 54年度 | 川口流坡「菅原道真詩」《書》 | | | |
| 第16回 | 55年度 | 和久井Who「HANGING」《立体造形》 | | | |
| 第16回 | 55年度 | 市原欣一「ふるさと」《写真》 | | | |
| 第17回 | 56年度 | 坂井彰夫「SEISHŌ」《彫刻》 | | | |
| 第17回 | 56年度 | 高木参平「BODY」《工芸》 | | | |

■ 第20回神奈川県美術展委員会組織

● 顧問

小倉遊亀
中島清之
山本丘人
小山敬三
斎藤義重
圓錐勝三
高田博厚
故赤地友哉
各務鑛三
蓮田脩吾郎
殿村藍田
比田井南谷

● 委員会委員

委員長
上野 豊

副委員長
李家正基
神戸由雄
菅原寿雄
匠 秀夫
土屋利保
三上次男
吉田耕三
弦田平八郎
加藤東一
國領經郎
斎藤壽一
井上信道
斎藤義重
各務鑛三
殿村藍田
奥村泰宏

● 大賞・準大賞選考委員

〈日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形部門〉

井上信道
加藤東一
國領經郎
斎藤 清
斎藤壽一
斎藤義重
匠 秀夫
弦田平八郎
中原佑介
三上次男

〈工芸・書・写真部門〉

奥村泰宏
各務鑛三
重森弘淹
菅原寿雄
殿村藍田
吉田耕三

● 審査員

〈日本画〉
片岡球子
加藤東一
工藤甲人
弦田平八郎

〈洋画〉
奥谷博
陰里鉄郎
國領経郎
匠秀夫
富山秀男
渡辺豊重

〈版画〉
朝日晃
斉藤清
斎藤壽一
島州一
吉田克朗

〈彫刻〉
井上信道
圓鏝元規
小島弘
三上次男

〈立体造形〉
倉重光則
斎藤義重
中原佑介
原口典之

〈野外彫刻〉
酒井忠康

針生一郎
三木多聞
柳生不二雄

〈工芸〉
故赤地友哉
赤堀郁彦
市橋とし子
江刺栄一
各務鑛三
佐藤もとい
永井鉄太郎
南雲龍
長谷部満彦
吉田耕三
吉田丈夫

〈書〉
伊藤撫剣
久保田昭子
菅原寿雄
竹田悦堂
溪口幽城
殿村藍田
西川万象
吉田蘭処

〈写真〉
五十嵐英寿
奥村泰宏
重森弘淹
田中雅夫
浜口タカシ

● 実行委員

〈日本画〉
浅見信夫
大山鎮
能島和明

〈洋画〉
阿部和美
大里光春
阪本文男
白鳥三郎
鈴木雪子
田口弘勝
吉崎道治

〈版画〉
磯見輝夫
柄沢斉
浜西勝則

〈彫刻〉
河原明
陶山定人
渋谷武美
垣内治雄

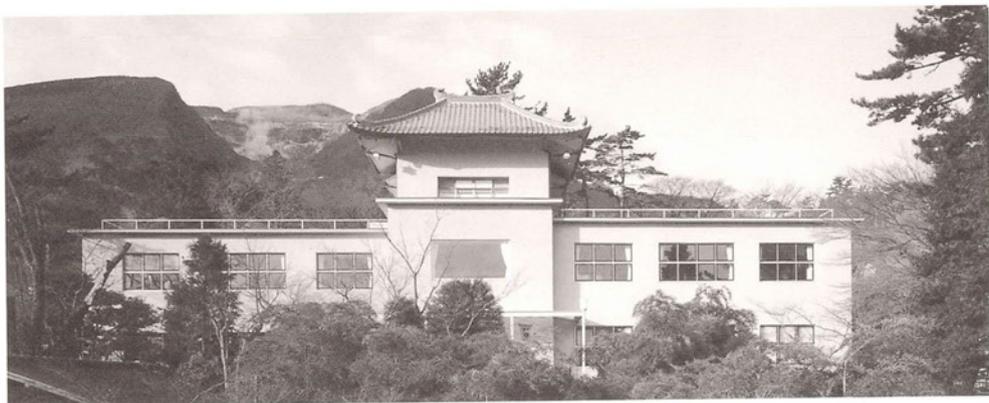
〈立体造形〉
鈴木明
鈴木豊男子
中島けいきょう

〈工芸〉
国行道子
坂井輝夫
篠和子
芝山吉邦

鐸木能子
永山登志子
林巨
尾留川忠
松井三郎

〈書〉
大島崑山
川口流坡
島津碧崑
丹羽蒼処
船本芳雲
村上紫茜

〈写真〉
鈴木健夫
鈴木登美太郎
高橋勤
中島倍三
野沢喜七
平本昌義
吉田健吉郎



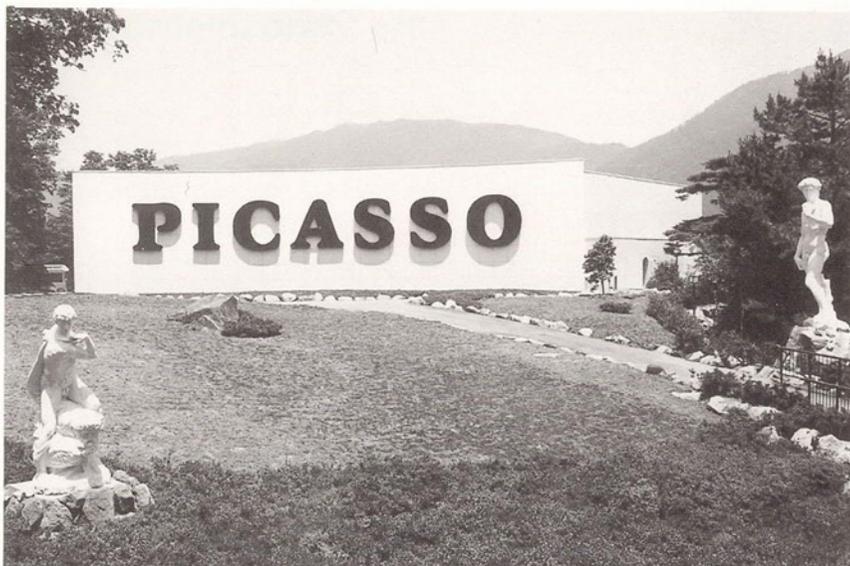
箱根美術館

休館＝毎週木曜日（祝日は開館）
開館時間＝9:30AM～4:00PM（入館は3:30PMまで）
入館料＝大人500円 高・大学生300円
小・中学生200円 団体割引は20名以上
住所＝神奈川県箱根町強羅1300 TEL (0460)2-2623

MOA美術館

休館＝毎週木曜日（祝日は開館）
開館時間＝9:30AM～4:00PM（入館は3:30PMまで）
入館料＝大人1,000円 高・大学生700円
小・中学生500円 団体割引は20名以上
住所＝熱海市桃山町26-2 TEL (0557)84-2511



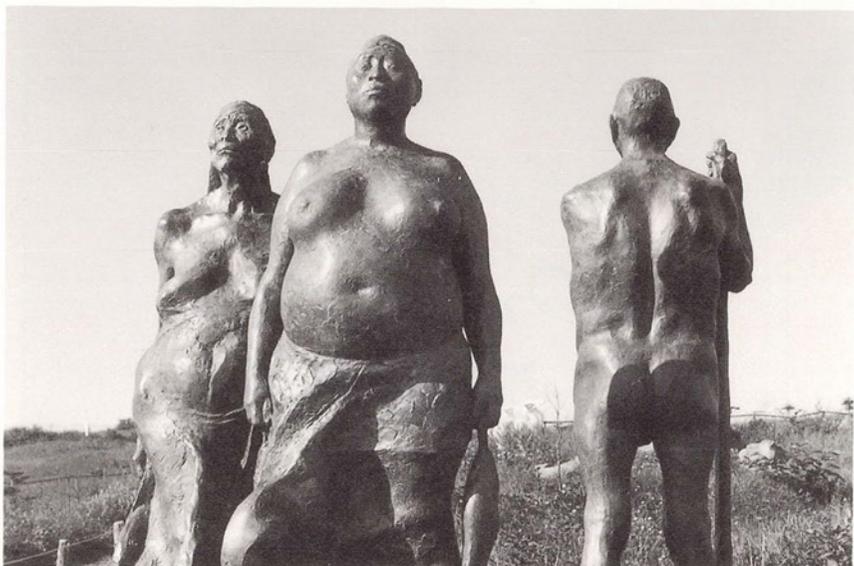


素顔のピカソにあえる森。

ピカソ館

彫刻の森美術館 (休館日なし)

箱根登山鉄道・彫刻の森駅下車徒歩2分
神奈川県足柄下郡箱根町二の平 TEL.0460-2-1161



大賞 フランススコ・ズニガ《海辺の人々》

第3回高村光太郎大賞展
(10月31日まで)

美ヶ原高原美術館

(冬期以外休館日なし)

長野県美ヶ原台上・ビーナスライン終点
長野県小県郡武石村美ヶ原台上 TEL.02688-6-2301~2

絵画・彫刻・工芸

Le Galerie des Beaux-arts

せんたあ画廊

〒231 横浜市中区真砂町3-33
関内駅前横浜センタービル4階
電話 045(651)1431(代)・045(662)2937(直)

絵と人の出会いのサロン

つりすとギャラリー

〒231 横浜市中区港町2-9
関内駅前第2ビル近隣日本ツーリスト内
TEL. 045-662-2504

創業明治十六年
筆墨硯紙
書道用品専門店

眞
藤
筆

本社 横浜市中区長者町五丁目五十九番地
〒三三一 電話横浜(〇四五)二五一〇八五三代
営業所 横浜市瀬谷区卸本町九三〇八番地
〒二四六 横浜総合卸センター八一一
電話横浜(〇四五)九二一三四七五代

現代絵画・版画

modern &
contemporary art



企画及び貸画廊

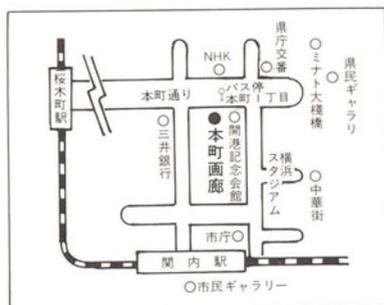
壁面31m150号可

本町画廊

横浜市中区本町1丁目7番地

〒231 本町1丁目下車 東ビル1F

☎045-212-2254



開港記念会館・県庁交番隣

絵画・彫刻・写真・陶芸

とととと 美術店



〒231

横浜市中区弁天通1-19 ☎045(201)8850

ヨコハマ画廊組合事務局

話題のニューフェイス
●待合せは、ザ・ダイヤモンド入口のデートスポットへ魁の舞の像●中央広場へ行けば、街の情報がなんでもわかる噂のニューメディアアヘメディアフレ

WE ARE FILLED OF UP TO DATE INFORMATION!

There are many beautiful happenings
in your surroundings.

I found a good goods.

You are very sophisticated lady have
broader category

9月27日(木)

OPEN

インフォメーションジャングル

The DIAMOND

YOKOHAMA

UCHUDO

●洋画材料●デザイン用品●額縁

あなたの創作欲を満たす品ぞろえが自慢です。

ALL OF ART MATERIAL

宇宙堂

横浜店 横浜ステーションビル・シアル4F TEL.045-311-2770

蒲田、仙台、千葉、津田沼、船橋、荻窪、静岡、松戸、他全15店舗

Winter

'84

冬のファッション

さり気なく、一人称。ニナリッチ



N NINA RICCI

ニナリッチブティック■本館3階

大人のエレガンスをテーマに

女性の美を表現しつづける

ニナリッチ

パリのブティックの名門ならではの

洗練されたシルエットが

ステキです

パリからあなたへ——ニナリッチ



おしゃれなレンガの散歩道
イセザキ・モール

横浜松坂屋

電話 261-2121 水曜定休

国鉄・地下鉄内駅—京浜急行日ノ出町駅

みらい 惚れ。

さまざまな色を通りぬけ、季節は白へと還ります。

またひとつ、“みらい”に近づいたのですね。

YOKOHAMA-ポルタと“みらい”とが、さらに強い交信をはじめました。



YOKOHAMA みらい人。

porta
東口地下街ポルタ



FAUCHON

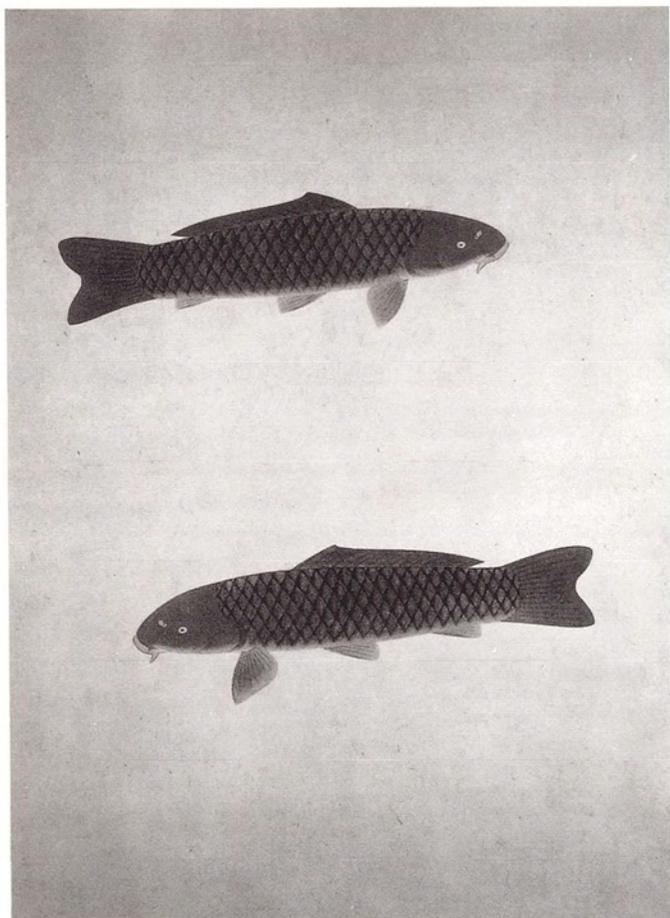
香りの名曲 フォション「アップルティ」

フォションはパリ・マドレーヌ広場で味を誇る高級食料品店。紅茶・コーヒー・スパイス・パン・ケーキ・瓶詰・缶詰…そのひとつひとつにフランスの味の文化が集約されています。

特に紅茶では香りの高いアップルティが人気！
タカシマヤだけでもおとめいただけます

●フォション・アップルティ(250g) …… 3,500円

 **Takashimaya** YOKOHAMA



一緒なら、きっと、うまく行くさ。

ちょっと贅沢な、ゴールドカード《セゾン》

新会員募集中

◆お問い合わせ・お申し込み＝6階/セゾンカウンター
☎0465(23)1111 内線611

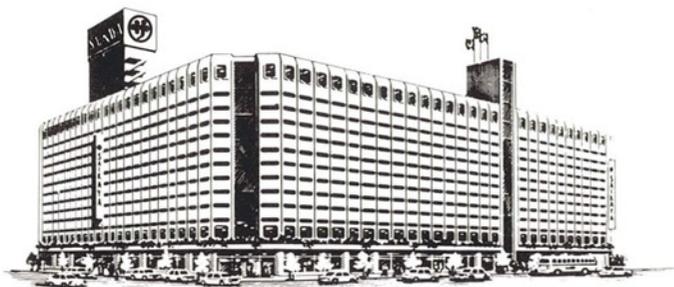
ギャラリー西武

「梅原龍三郎版画展」 ■昭和59年10月12日(金)～24日(水)
■志澤/4階

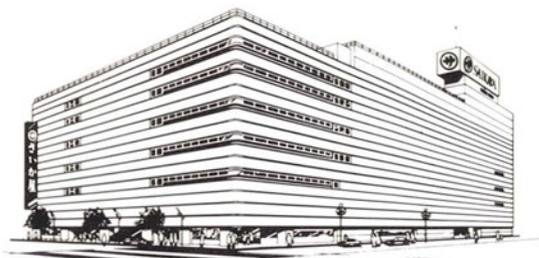
〒250 小田原市栄町1-5-10 電話0465(23)1111大代表 木曜定休



よい品にまごころそえて 豊かな暮らしのお手伝い。



●川崎店 ☎044・211・3111 〒210 川崎市川崎区小川町1



●横須賀店 ☎0468・23・1234 〒238 横須賀市大滝町1-10



さいか屋

川崎店・横須賀店

水曜定休

世界のファッションと文化のプラザ



●藤沢さいか屋 ☎0466・27・1111 〒251 藤沢市藤沢555



三越グループ
藤沢
さいか屋
水曜定休

若い仲間のファッションロード
ジヨルナ



●町田ジヨルナ ☎0427・23・2531
〒194 町田市原町田6-6-14

MACHIDA
JORNA
第2・3水曜定休



Imaging the Future

50
Years Since 1934

Official Film of
the Los Angeles
1984 Olympics



オリンピックの感動は永遠に。



飛行船「フジフィルム」号、ロス五輪を記念して全米を周航。全長52m高さ18.7m、乗員定数12名。

富士フィルムの技術が、ロス五輪で大活躍。

一瞬の差が勝者と敗者を分けてしまう。オリンピックは奇跡のシーンの連続だ。0.01秒に賭けてゴールにだけ込むランナー。ウルトラCを超える技を生み出す肉體。躍動する一瞬を美しくとらえたのは、世界最高感度のフジカラーHR1600。公式記録フィルムとして、ロス五輪の感動を世界の人々へ伝えました。また、美しい瞬を再現したのはフジカラーHRプリントNEWタイプ。一枚の写真がもつ大きな力。感動は、永遠に。



フジカラーHR1600
フジカラーHRプリントNEWタイプ。



江戸の頃より

味づくり一筋

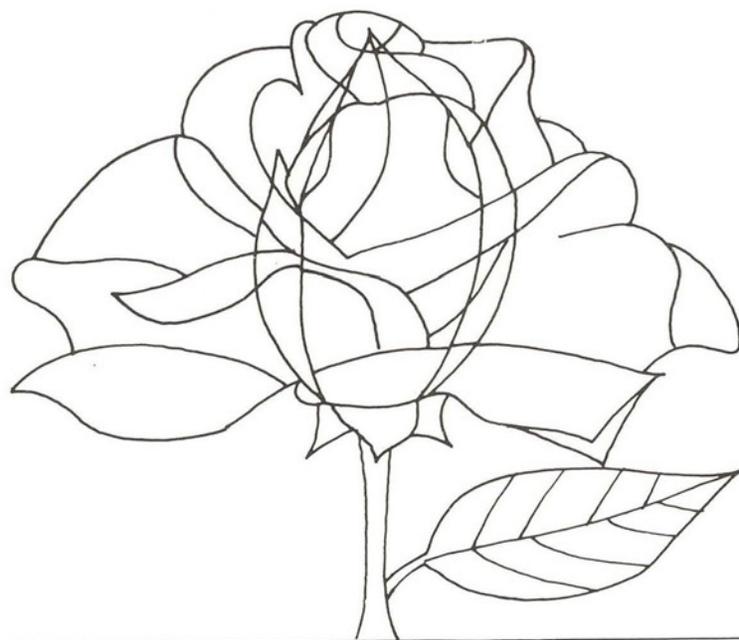


鈴廣蒲鉾工業株式会社

神奈川県小田原市風祭245/0465(24)3141(代)



財団法人 神奈川県美術奨学会



■美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会賞)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といたしたく篤志家の御寄付をお願いしております。

皆様方の御協力をお願い申し上げます。

なお、寄付金は、基金に繰り入れさせていただき、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。



県下随一のプロフェッショナルスペース!

 有隣堂

画材/製図デザイン用品/書道用品コーナー

ユーリンファボリ 横浜・馬車道 TEL.(045)662-1231

藤沢店 藤沢駅南口名店ビル6階 TEL.(0466)26-1411

ルミネ有隣堂 横浜駅東口ルミネ5F TEL.(045)453-0811

厚木店 小田急線・本厚木駅前 TEL.(0462)23-4111

※ 書道用品のみ取り扱っております。

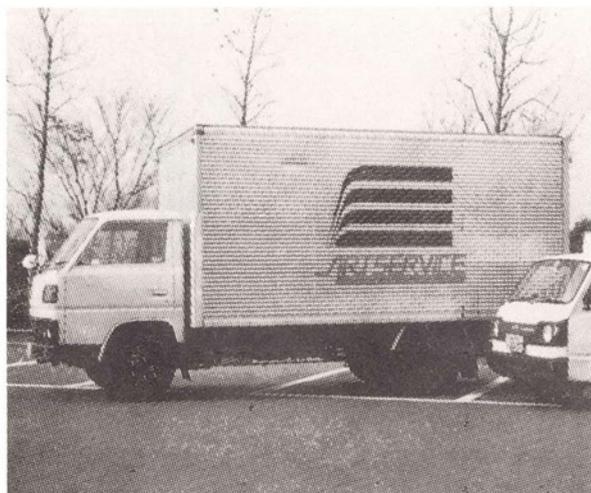
横浜馬車道・ユーリンファボリ7階ギャラリー 地下鉄関内駅馬車道口下車1分・国鉄関内駅北口下車3分
10:30 AM - 7:30 PM TEL.(045)662-1231

— 搬入・出代行 ■ 貸額縁 —

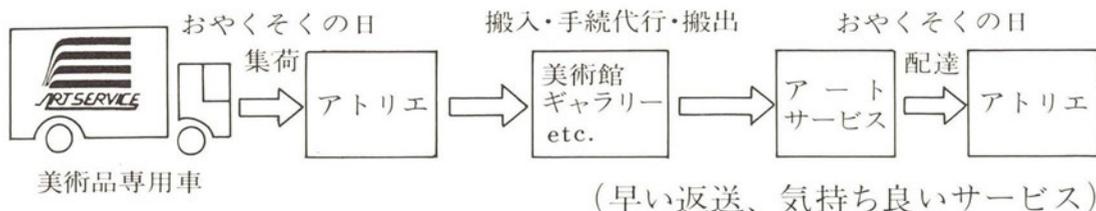
各公募展・グループ展・個展，地方発送承ります

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます
平素は格別のお引き立てをいただき誠にありがとうございます
さて、先生方が御出品されます美術展開催が近づき、当社スタッフも
お客様のご期待にそうよう業務に精励いたしております。つきまして
は作品の搬入出、貸額縁、画集用写真等、御用命をお待ちいたして
おります。ご希望の方はお手数ですが返信用はがきを当社まで、お送り
下さいませ(郵送無料) よろしく御依頼の程お願い申し上げます

敬 具



- 予約受付
- ◆ 作品搬入出運搬及び手続代行
 - ◆ 貸額縁(公募展用本額縁)
 - ◆ 地方出品荷受、発送業務
 - ◆ 画集用写真ファイル



アートサービス

TEL. (045) 715-6444

(営業時間)

火曜～金曜 (AM10:00～PM6:00)

土曜・日曜 (AM10:00～PM1:00)

月曜定休日 (受付PM1:00まで)

有限会社 アートサービス / 〒232横浜市南区大岡1-18-20

ART SERVICE INC. 1-10-9 ŌKA-CHO MINAMI-KU YOKOHAMA-CITY JAPAN TEL (045)-715-6444

印・刷・美・感・覚・全・開・中

プロフェッショナルに徹して36年



企画デザイン・カラー製版印刷
《カタログ・DM・チラシ・頁物・一般事務用帳票類・包装紙・美粧袋》

朝日オフセット印刷株式会社

本社・工場 横浜市鶴見区本町通1-22 ☎(045)511-0141代

株式会社 **あい企画** 企画制作《撮影・デザイン・その他》
☎(045)511-5407

有限 **鶴見広告社** 《新聞折込・車内吊・浴場掲載・広告全般》
☎(045)521-6250

発 行 神奈川県美術展委員会
事務局：神奈川県民部文化室
表紙デザイン 五十嵐 威暢
製作・印刷 朝日オフセット印刷株式会社

